

調査のあらまし

1 調査の概要

(1) 調査の目的

県民の生活に深い関わりを持つ県政の各分野について、県民の関心や意向、要望等を調査し、今後の県政施策推進の基礎資料とする。

(2) 調査の項目

心の豊かさと生活意識

広報活動

治安回復

環境政策

医療に関する意識

知的財産制度

(3) 調査の設計

調査地域	愛知県の全域
調査対象	県内在住の 20 歳以上の男女
標本数	3,000 人
抽出方法	層化二段無作為抽出法
調査方法	郵送法
調査期間	平成 18 年 7 月 5 日 ~ 7 月 19 日

(4) 調査委託先

名豊コンサルタント株式会社

(5) 回収結果

標本数	3,000 人
回収数	1,527 人 (50.9%)

2 調査対象者の属性

【性別】

総数	男性	女性	無回答
1,527 人	709 人	808 人	10 人
100.0%	46.4%	52.9%	0.7%

【年齢】

20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	無回答
148 人	272 人	255 人	352 人	162 人	329 人	9 人
9.7%	17.8%	16.7%	23.1%	10.6%	21.5%	0.6%

【居住地域】

名古屋地域	尾張地域	西三河地域	東三河地域	無回答
444 人	572 人	329 人	169 人	13 人
29.1%	37.5%	21.5%	11.1%	0.9%

【職業】

自営業 182 人 11.9%	農林漁業	28 人	1.8%
	商工サービス業	91 人	6.0%
	自由業	63 人	4.1%
勤め人 776 人 50.8%	管理職	107 人	7.0%
	専門技術職	247 人	16.2%
	事務職	186 人	12.2%
	労務職	236 人	15.5%
無職 493 人 32.3%	家事専業	289 人	18.9%
	学生	23 人	1.5%
	その他	181 人	11.9%
無回答		76 人	5.0%

3 サンプルデザイン

- (1) 母集団 愛知県内に居住する 20 歳以上の男女
- (2) 標本数 3,000
- (3) 地点数 150
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

ア 層化

愛知県内の市町村を、市（名古屋市は区）及び郡を単位として、16 の調査地区にグループ化した（調査地区区分図のとおり）。さらに、各調査区を名古屋市、その他の市と郡部（町村）の 3 つに分類し、それぞれを層とした。

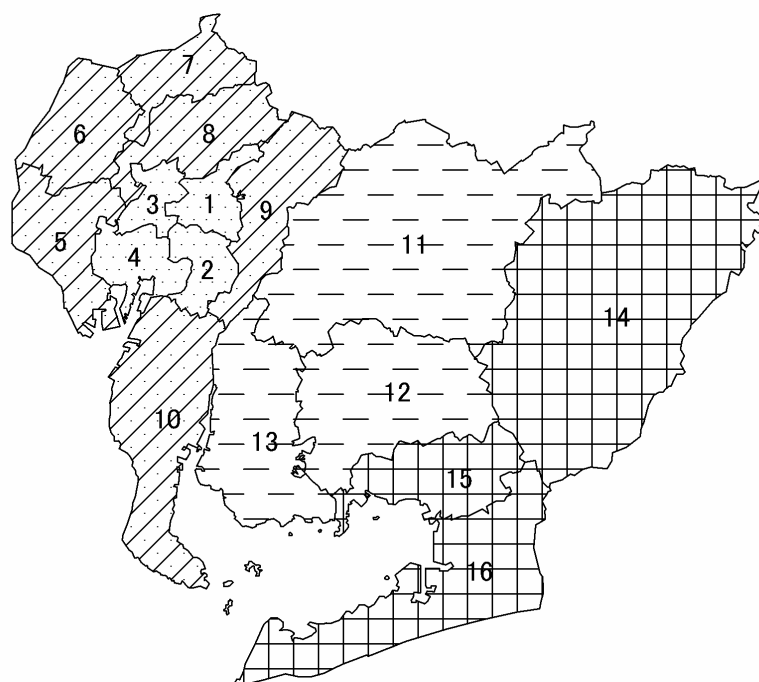
イ 標本数の配分

各層に、その推定母集団数（平成 18 年 4 月 1 日現在の人口）の大きさにより、3,000 の標本数を比例配分した。

ウ 抽出の方法

- (ア) 第 1 次抽出単位となる調査地点として、平成 12 年度国勢調査時に設定された調査区を使用した。
- (イ) 各層における調査地点については、1 次調査地点の標本数が 20 となるように算出し、各層内での調査地点が 1 地点の場合は単純無作為抽出法により抽出、2 地点以上となる場合は、「層における調査区数の合計」÷「層で抽出された調査地点数」=「抽出間隔」を算出し、等間隔抽出法により抽出した。
- (ウ) 各調査地点における対象者の抽出は、住民基本台帳により等間隔抽出法で抽出した。

調査地区区分図



地域	地区 番号	地区名称(市(区)郡)
名古屋地域	1	名古屋市東部地区 (千種区・東区・守山区・名東区)
	2	名古屋市南東部地区 (昭和区・瑞穂区・緑区・天白区)
	3	名古屋市北西部地区 (北区・西区・中村区・中区)
	4	名古屋市南西部地区 (熱田区・中川区・港区・南区)
尾張地域	5	海部津島地区 (津島市・愛西市・弥富市・海部郡)
	6	一宮地区 (一宮市・稲沢市)
	7	犬山江南地区 (犬山市・江南市・岩倉市・丹羽郡)
	8	春日井小牧地区 (春日井市・小牧市・清須市・北名古屋市・西春日井郡)
	9	尾張東部地区 (瀬戸市・尾張旭市・豊明市・日進市・愛知郡)
	10	知多地区 (半田市・常滑市・東海市・大府市・知多市・知多郡)
西三河地域	11	豊田加茂地区 (豊田市・西加茂郡)
	12	岡崎額田地区 (岡崎市・額田郡)
	13	衣浦東部幡豆地区 (碧南市・刈谷市・安城市・西尾市・知立市・高浜市・幡豆郡)
東三河地域	14	東三河山間地区 (新城市・北設楽郡)
	15	蒲郡豊川地区 (豊川市・蒲郡市・宝飯郡)
	16	豊橋地区 (豊橋市・田原市)

調査地区別標本・調査地点数一覧

上段：推定母集団 中段：標本数 下段：調査地点数

		名古屋市	その他の市	郡部（町村）	計
名古屋地域	名古屋市東部地区	431,533 220 11			431,533 220 11
	名古屋市南東部地区	463,493 240 12			463,493 240 12
	名古屋市北西部地区	420,108 220 11			420,108 220 11
	名古屋市南西部地区	463,962 240 12			463,962 240 12
尾張地域	海部津島地区		138,634 80 4	123,219 60 3	261,853 140 7
	一宮地区		404,264 220 11		404,264 220 11
	犬山江南地区		176,506 100 5	42,699 20 1	219,205 120 6
	春日井小牧地区		458,414 240 12	17,443 20 1	475,857 260 13
	尾張東部地区		284,037 140 7	66,826 40 2	350,863 180 9
	知多地区		340,391 180 9	127,300 60 3	467,691 240 12
西三河地域	豊田加茂地区		318,503 160 8	41,466 20 1	359,969 180 9
	岡崎額田地区		282,675 140 7	27,284 20 1	309,959 160 8
	衣浦東部幡豆地区		460,036 240 12	46,903 20 1	506,939 260 13
東三河地域	東三河山間地区		42,234 20 1	10,404 20 1	52,638 40 2
	蒲郡豊川地区		173,668 80 4	35,172 20 1	208,840 100 5
	豊橋地区		345,105 180 9		345,105 180 9
計		1,779,096 920 46	3,424,467 1,780 89	538,716 300 15	5,742,279 3,000 150

調査地点一覧

地点名				対象数
名古屋地域	名古屋市東部地区	名古屋市	千種区 丸山町	20
		"	" 吹上1丁目	20
		"	" 春里町	20
		"	" 東山通	20
		"	東区 徳川町	20
		"	守山区 小幡中2丁目	20
		"	" 川村町	20
		"	" 鳥神町	20
		"	" 大字上志段味字東谷	20
		"	名東区 引山2丁目	20
	"	" 大針1丁目	20	
	名古屋市南東部地区	"	昭和区 塩付通4丁目	20
		"	" 雪見町3丁目	20
		"	瑞穂区 膳棚町	20
		"	" 牧町	20
		"	" 船原町	20
		"	緑区 有松町大字桶狭間字生山	20
		"	" 鹿山3丁目	20
		"	" 松が根台	20
		"	" 八つ松、平手南、砂田、大清水西、籠山、大清水	20
		"	" 西神の倉、東神の倉	20
	名古屋市北西部地区	"	天白区 八事石坂	20
		"	" 原3丁目	20
		"	北区 清水2丁目	20
		"	" 新堀町	20
		"	" 杉村1丁目	20
		"	" 五反田町	20
		"	西区 則武新町3丁目	20
"		" 又穂町	20	
"		" 見寄町	20	
"		中村区 太閤5丁目	20	
名古屋南西部地区	"	" 岩塚町	20	
	"	" 塩池町	20	
	"	中区 新栄1丁目	20	
	"	熱田区 三本松町	20	
	"	" 金山町1丁目	20	
	"	中川区 百船町	20	
	"	" 十一番町2丁目	20	
	"	" 草平町1丁目	20	
	"	" 水里3丁目	20	
	"	" 本前田町	20	
名古屋南西部地区	"	港区 砂美町	20	
	"	" 入場2丁目	20	
	"	" 新茶屋4丁目	20	
	"	南区 神松町3丁目	20	
	"	" 忠次1丁目	20	

地点名				対象数	
尾張地域	海部津島地区	津島市	青塚町6丁目	20	
		"	江西町	20	
		愛西市	須依町庄屋敷	20	
		弥富市	鯛浦町下本田	20	
		海部郡	七宝町大字鷹居1丁目	20	
		"	甚目寺町大字中萱津字親牧	20	
		"	蟹江町今西1丁目	20	
		一宮地区	一宮市	大江3丁目	20
			"	音羽3丁目	20
			"	大字大赤見	20
	"		三ツ井7丁目	20	
	"		大和町苅安賀	20	
	"		萩原町萩原字河原崎	20	
	"		大毛字神明廻	20	
	"		祐久字九百坪	20	
	稲沢市		大塚南1丁目	20	
	"		高御堂2丁目	20	
	"	祖父江町三丸淵一段割	20		
	犬山江南地区	犬山市	大字五郎丸字清水坪	20	
		"	善師野台1丁目	20	
		江南市	東野町神上	20	
		"	山尻町本丸西	20	
		岩倉市	曾野町下街道	20	
		丹羽郡	大口町余野4丁目	20	
	春日井小牧地区	春日井市	八田町7丁目	20	
		"	浅山町3丁目	20	
		"	東野町10丁目	20	
		"	四ツ家町	20	
"		勝川町4丁目	20		
"		神屋町	20		
"		押沢台3丁目	20		
小牧市		山北町	20		
"		城山5丁目	20		
清須市		西枇杷島町西六軒	20		
"	鍋片2丁目	20			
北名古屋西春日井郡	北名古屋市	九之坪下霞田	20		
	西春日井郡	豊山町大字豊場字高前	20		
尾張東部地区	瀬戸市	元町1丁目	20		
	"	さつき台2丁目	20		
	"	萩山台4丁目	20		
	尾張旭市	新居町寺田	20		
	豊明市	新栄町1丁目	20		
	日進市	三本木町下川田	20		
	"	岩崎町北高上	20		
	愛知郡	東郷町大字諸輪字上市	20		
	"	長久手町大字岩作字三ヶ峯	20		
	知多地区	半田市	成岩東町1丁目	20	
"		乙川向田町	20		
"		亀崎月見町4丁目	20		
常滑市		青梅町8丁目	20		
東海市		名和町西垣内	20		
"		加木屋町御林	20		
大府市		江端町5丁目	20		
知多市		岡田字宝ノ脇	20		
"		八幡字蔵池	20		
知多郡		阿久比町大字草木字柏原東	20		
"	東浦町大字森岡字一色畑	20			
"	美浜町大字奥田字儀路	20			

地点名			対象数		
西 三 河 地 域	豊 田 加 茂 地 区	豊田市	喜多町	20	
		"	清水町	20	
		"	横山町 4 丁目	20	
		"	渋谷町	20	
		"	配津町矢通	20	
		"	吉原町屋敷畠	20	
		"	本徳町	20	
		"	上渡合町	20	
		西加茂郡	三好町大字打越字南屋敷、字上屋敷	20	
	岡 崎 額 田 地 区	岡崎市	康生通南 3 丁目	20	
		"	竜美西 2 丁目	20	
		"	米河内町	20	
		"	桑谷町字森下、字下平地	20	
		"	上地 1 丁目	20	
		"	小針町字城跡	20	
		"	大樹寺 2 丁目	20	
		額田郡	幸田町大字芦屋字幸田	20	
	衣 浦 東 部 幡 豆 地 区	碧南市	中山町 3 丁目	20	
		"	三宅町 1 丁目	20	
		刈谷市	池田町	20	
		"	半城土中町	20	
		安城市	大山町 1 丁目	20	
		"	古井町芝崎	20	
		"	篠目町新郷	20	
		"	東端町鐘鋳場	20	
			西尾市	家武町	20
		"	巨海町	20	
		知立市	宝町塩搔	20	
		高浜市	青木町	20	
	幡豆郡	一色町大字一色字東前新田	20		

地点名			対象数	
東 三 河 地 域	東 三 河 山 間 地 区	新城市	平井字西原	20
		北設楽郡	設楽町津具字中野沢、字林、字寺ノ沢	20
	蒲 郡 豊 川 地 区	豊川市	小桜町	20
		"	諏訪 4 丁目	20
		蒲郡市	御幸町	20
		"	柏原町加治替戸	20
		宝飯郡	音羽町赤坂台	20
	豊 橋 地 区	豊橋市	東郷町	20
		"	神明町	20
		"	豊岡町	20
		"	江島町	20
		"	東小浜町	20
		"	牟呂町字郷社西	20
		"	石巻町字野田	20
		"	浜道町字北側	20
		田原市	神戸町郷仲	20

4 この報告書のみかた

- ・ 回答率（％）は、少数第 2 位を四捨五入したため、合計が 100％にならない場合がある。また、小計についても同様に異なる場合がある。
- ・ 1 人の対象者に複数の回答を認めたものについては、その項目を選んだ人が回答者全体に占める割合を表しており、通常その比率の合計は 100％を超える。
- ・ 調査結果については統計上多少の誤差（標本誤差）が生じることがあり、調査結果をみる場合には、次のような一定の幅をもたせてみる必要がある。
- ・ 標本誤差は、次の式で算出される。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{P(100 - P)}{N}}$$

P : 回答率（％）
N : 回答者数（人）

【標本誤差早見表（主なもの）】

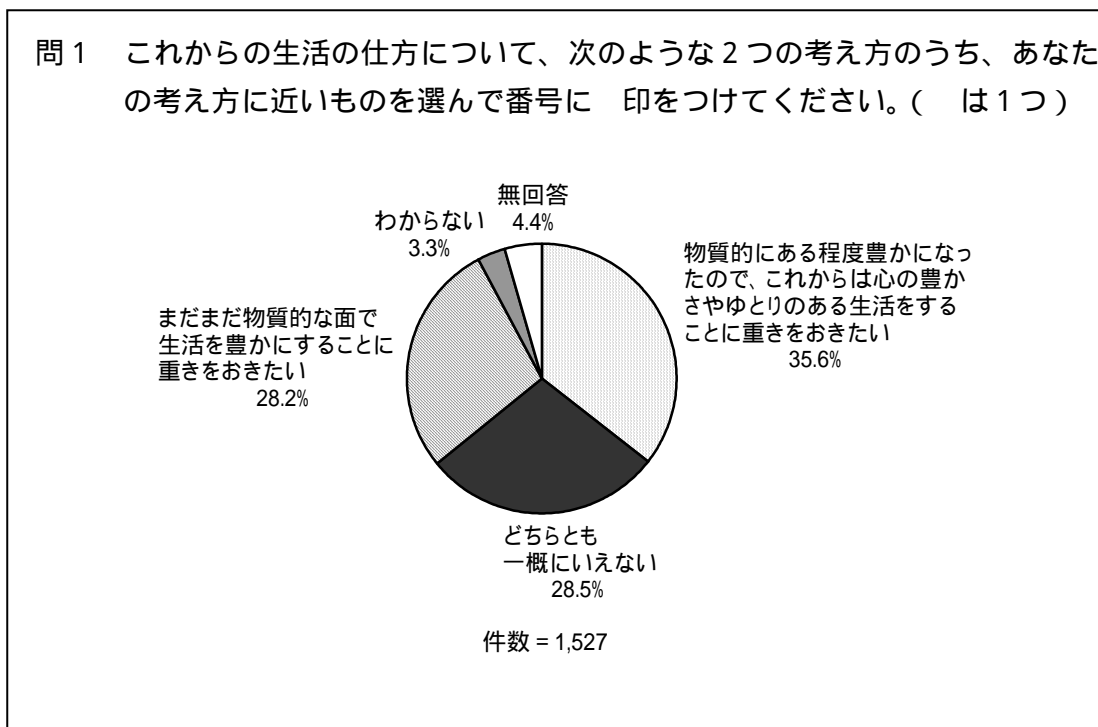
		P : 回答率（％）										
		N : 回答者数（人）	5 又は 95	10 又は 90	15 又は 85	20 又は 80	25 又は 75	30 又は 70	35 又は 65	40 又は 60	45 又は 55	50
総数		1,527	1.6	2.2	2.6	2.9	3.1	3.3	3.5	3.5	3.6	3.6
性別	男性	709	2.3	3.2	3.8	4.2	4.6	4.9	5.1	5.2	5.3	5.3
	女性	808	2.2	3.0	3.6	4.0	4.3	4.6	4.7	4.9	5.0	5.0
年齢別	20～29 歳	148	5.1	7.0	8.3	9.3	10.1	10.7	11.1	11.4	11.6	11.6
	30～39 歳	272	3.7	5.1	6.1	6.9	7.4	7.9	8.2	8.4	8.5	8.6
	40～49 歳	255	3.9	5.3	6.3	7.1	7.7	8.1	8.4	8.7	8.8	8.9
	50～59 歳	352	3.3	4.5	5.4	6.0	6.5	6.9	7.2	7.4	7.5	7.5
	60～64 歳	162	4.8	6.7	7.9	8.9	9.6	10.2	10.6	10.9	11.1	11.1
	65 歳以上	329	3.4	4.7	5.6	6.2	6.8	7.1	7.4	7.6	7.8	7.8
地域別	名古屋地域	444	2.9	4.0	4.8	5.4	5.8	6.2	6.4	6.6	6.7	6.7
	尾張地域	572	2.6	3.5	4.2	4.7	5.1	5.4	5.6	5.8	5.9	5.9
	西三河地域	329	3.4	4.7	5.6	6.2	6.8	7.1	7.4	7.6	7.8	7.8
	東三河地域	169	4.7	6.5	7.8	8.7	9.4	10.0	10.4	10.7	10.8	10.9
職業別	自営業	182	4.6	6.3	7.5	8.4	9.1	9.6	10.0	10.3	10.4	10.5
	勤め人	776	2.2	3.0	3.6	4.1	4.4	4.7	4.8	5.0	5.1	5.1
	無職	493	2.8	3.8	4.5	5.1	5.5	5.8	6.1	6.2	6.3	6.4

調査結果の分析

1 心の豊かさと生活意識

(1) 心の豊かさ、物の豊かさ

「心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」が36%



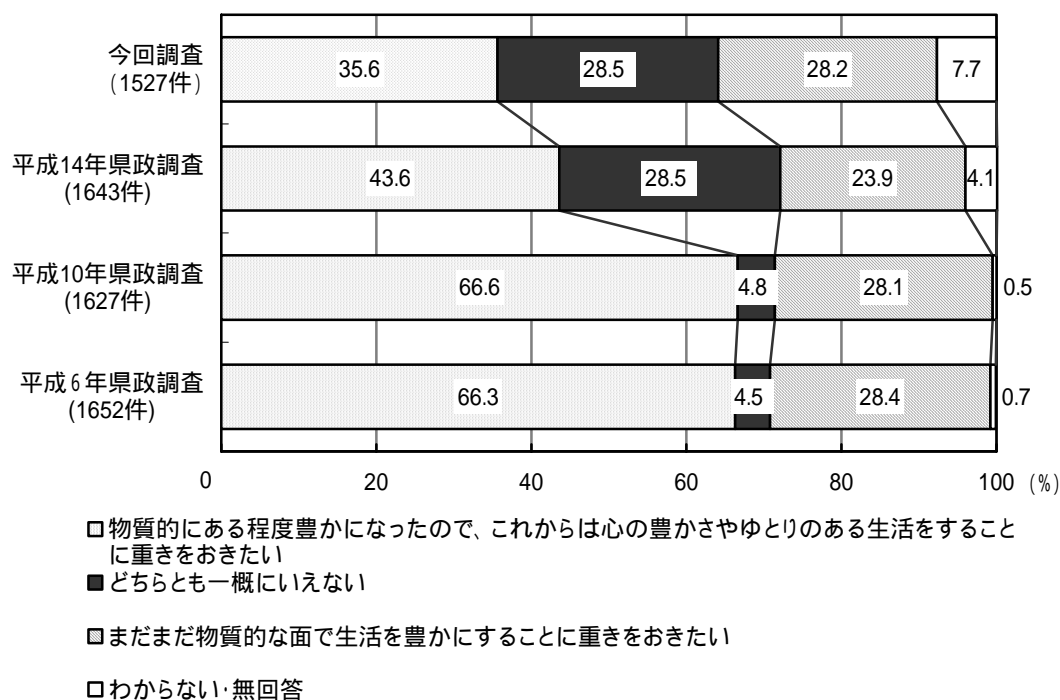
これからの生活の仕方について、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」と答えた人の割合は35.6%となっている。一方で、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と答えた人の割合は28.2%となっている。

また、「どちらとも一概にいえない」と答えた人の割合は28.5%となっている。

心の豊かさ、物の豊かさ（時系列比較）

平成 14 年の県政世論調査と比較すると、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」と答えた人の割合は 43.6%（平成 14 年調査）から 35.6%（今回調査）と 8.0 ポイント低くなっている。

一方、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と答えた人の割合は 23.9%（平成 14 年調査）から 28.2%（今回調査）と 4.3 ポイント高くなっている。

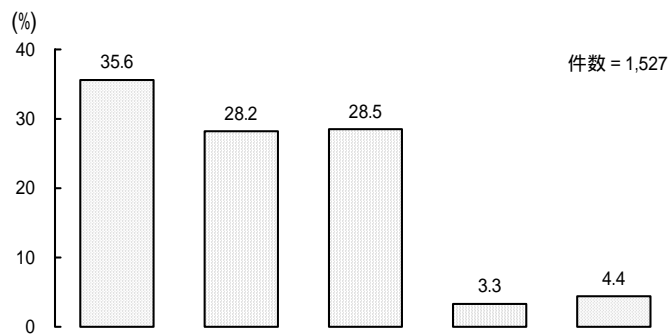


心の豊かさ、物の豊かさ（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別でみると、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と答えた人の割合は、女性（25.5%）より男性（31.3%）で 5.8 ポイント高くなっている。年齢別でみると、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」と答えた人の割合は、50 代以上で 4 割を超えている。

居住地域別でみると、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」と答えた人の割合は、西三河地域（41.9%）が高く、名古屋地域（30.6%）で低くなっている。

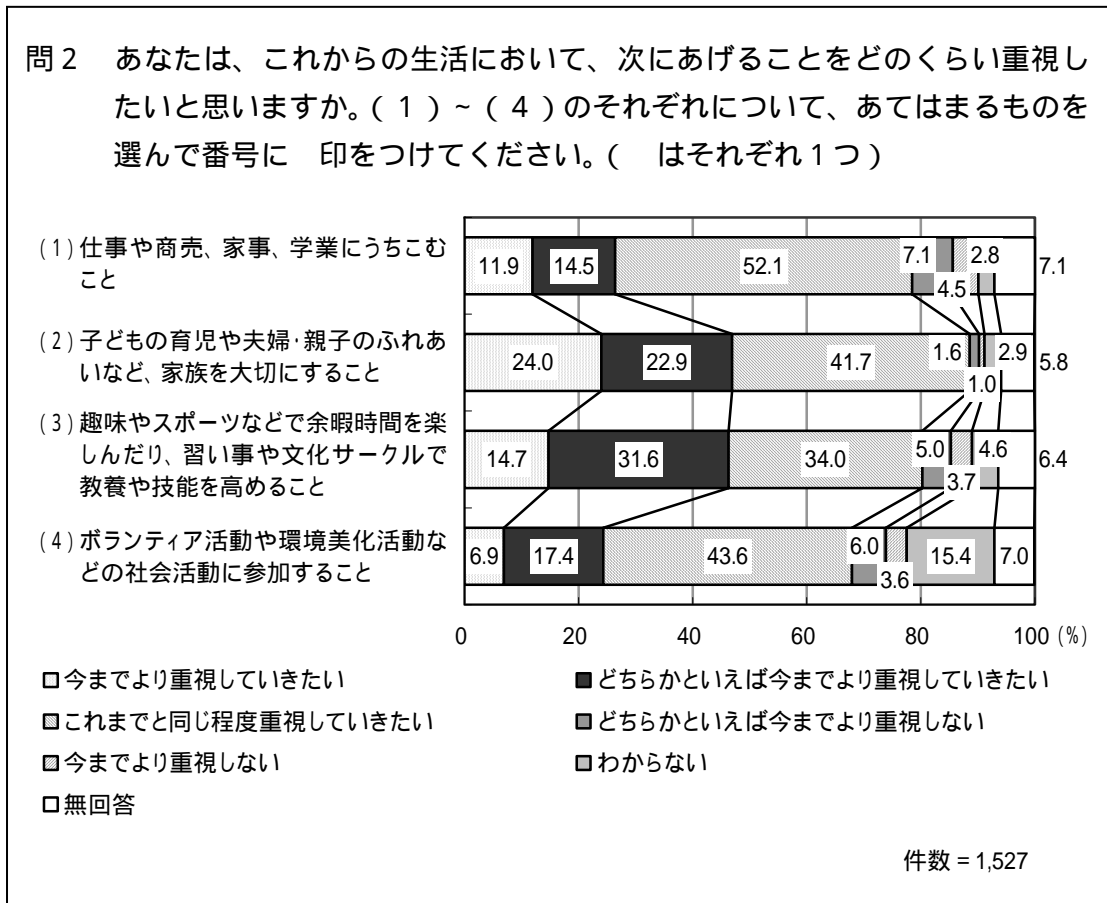
職業別でみると、大きな差異はみられない。



		とらに物 のほは質 重あるな きをのつ をお生た きたさを すやこ るゆれ豊 ことか	に生ま 重だ きをま をおか きたす たいる こと	ないち らと も一 概に いえ	わ か ら な い	無 回 答
性別	男性	35.8	31.3	26.2	2.3	4.4
	女性	35.4	25.5	30.7	4.2	4.2
年齢別	20～29歳	26.4	27.0	35.1	8.1	3.4
	30～39歳	26.1	33.5	33.5	2.6	4.4
	40～49歳	32.5	29.8	33.3	1.6	2.7
	50～59歳	42.3	27.8	24.7	2.3	2.8
	60～64歳	40.1	27.2	27.8	1.2	3.7
	65歳以上	40.4	24.6	22.5	5.2	7.3
地域別	名古屋地域	30.6	31.5	30.0	3.6	4.3
	尾張地域	35.1	27.6	29.2	3.5	4.5
	西三河地域	41.9	25.5	26.1	2.7	3.6
	東三河地域	38.5	27.8	27.8	2.4	3.6
職業別	自営業	34.1	31.9	29.1	0.5	4.4
	勤め人	36.9	29.0	28.9	1.7	3.6
	無職	35.7	25.8	28.0	6.1	4.5

(2) 今後重視したい生活領域

『家族を大切にすること』や『趣味・スポーツ・習い事』を“今までより重視”する人が4割以上



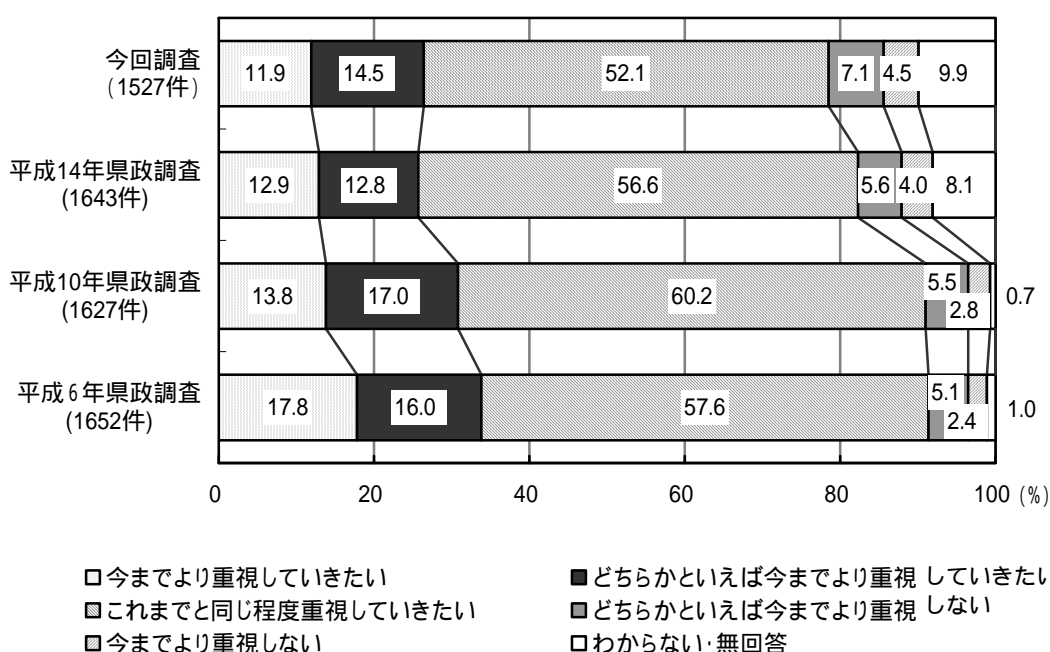
これからの生活で重視したいことについて、『子どもの育児や夫婦・親子のふれあいなど、家族を大切にすること』を“今までより重視していきたい”(「今までより重視していきたい」24.0% + 「どちらかといえば今までより重視していきたい」22.9%)と答えた人の割合は46.9%、『趣味やスポーツなどで余暇時間を楽しんだり、習い事や文化サークルで教養や技能を高めること』を“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は46.3%となっている。

4つの生活領域ごとに過去の調査との比較および属性との関連をみると、次のとおりである。

() 仕事や商売、家事、学業にうちこむこと

平成14年の県政世論調査と比較すると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は25.7%（平成14年調査）から26.4%（今回調査）と0.7ポイント高くなっている。

仕事や商売、家事、学業にうちこむこと（時系列比較）



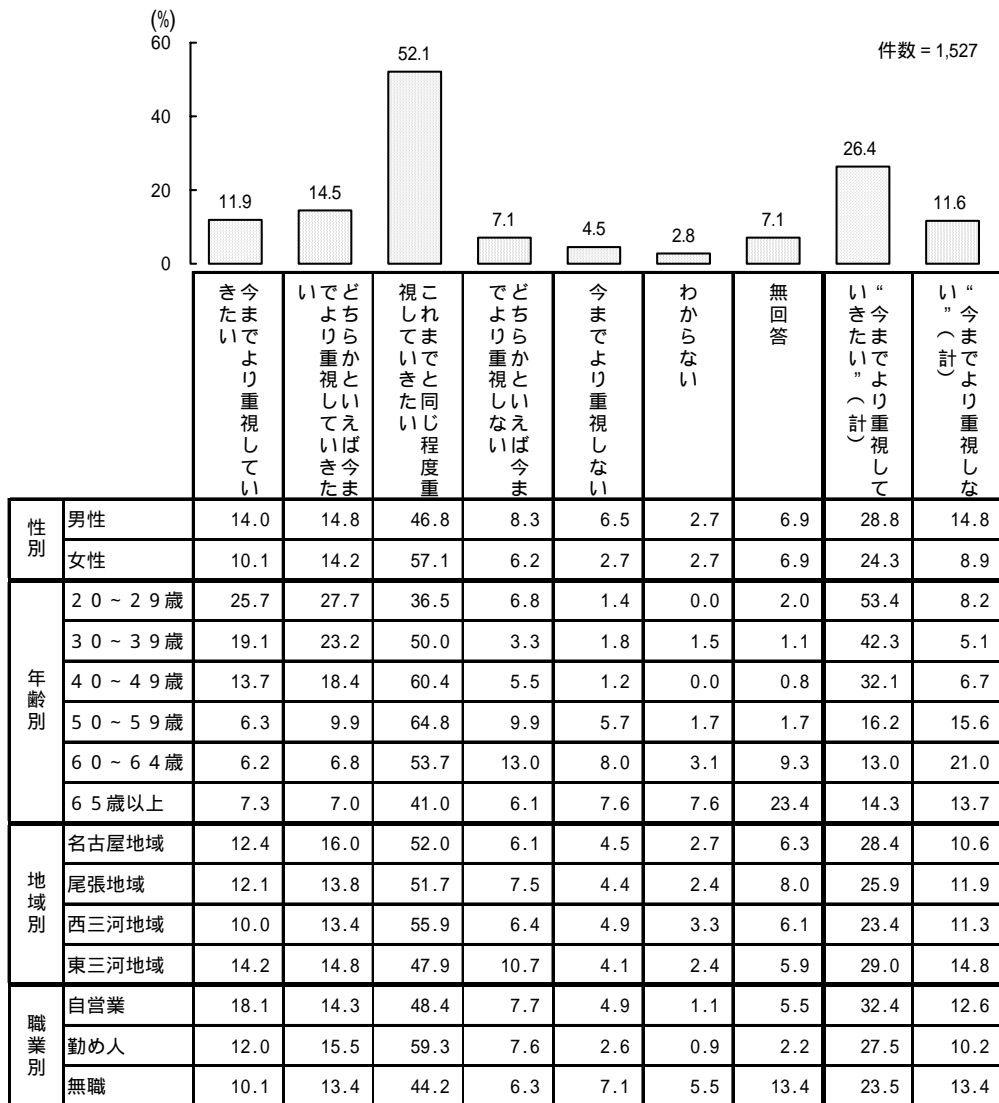
性別でみると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、女性（24.3%）より男性（28.8%）で4.5ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、年齢が若いほど高くなる傾向がみられ、20代（53.4%）で5割を超えている。

居住地域別でみると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、東三河地域（29.0%）と名古屋地域（28.4%）でやや高くなっている。

職業別でみると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、自営業（32.4%）で高くなっている。

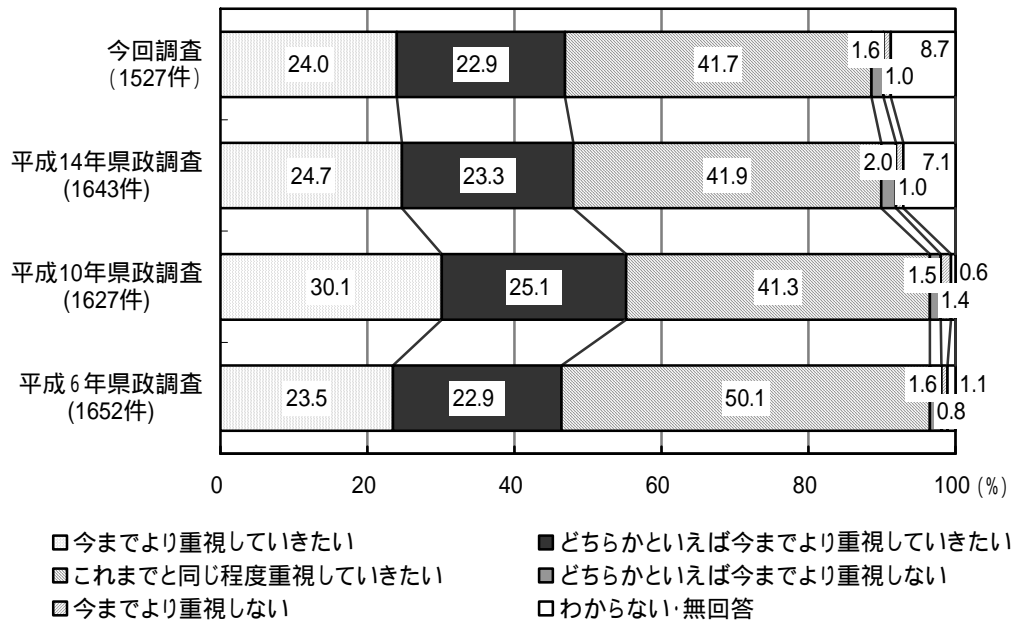
仕事や商売、家事、学業にうちこむこと（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



() 子どもの育児や夫婦・親子のふれあいなど、家族を大切にすること

平成 14 年の県政世論調査と比較すると、“今までより重視していききたい”と答えた人の割合は 48.0%（平成 14 年調査）から 46.9%（今回調査）と 1.1 ポイント低くなっている。

子どもの育児や夫婦・親子のふれあいなど、家族を大切にすること(時系列比較)



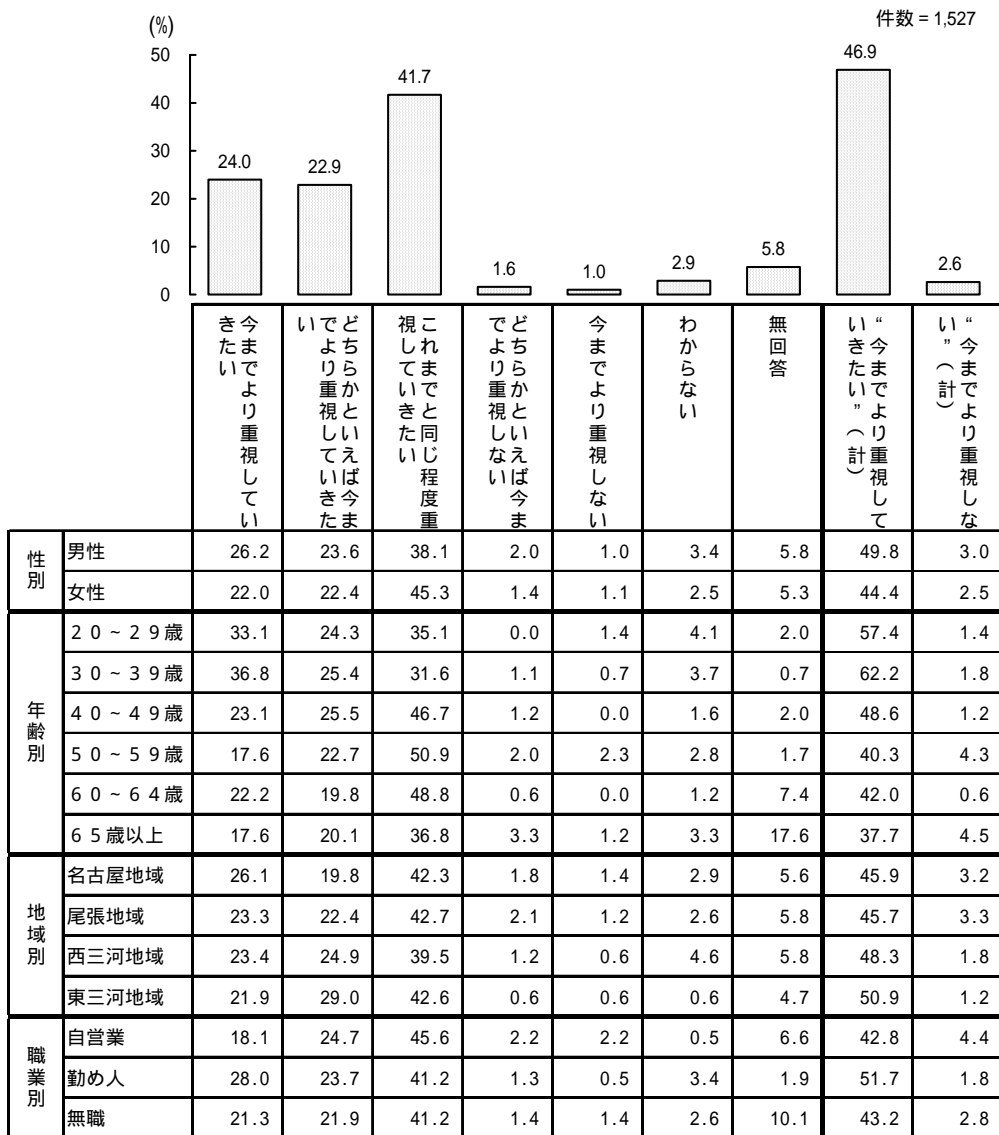
性別で見ると、“今までより重視していききたい”と答えた人の割合は、女性（44.4%）より男性（49.8%）で 5.4 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、“今までより重視していききたい”と答えた人の割合は、20代（57.4%）と 30代（62.2%）で高くなっている。

居住地域別で見ると、“今までより重視していききたい”と答えた人の割合は、東三河地域（50.9%）でやや高くなっている。

職業別で見ると、“今までより重視していききたい”と答えた人の割合は、勤め人（51.7%）で高くなっている。

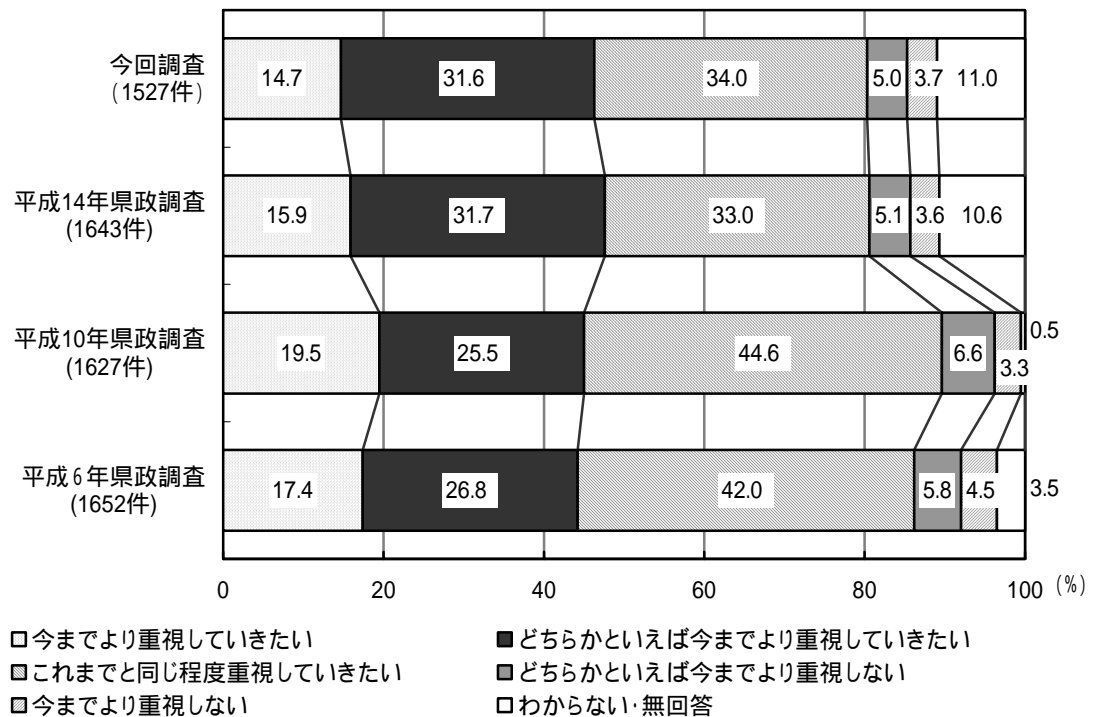
子どもの育児や夫婦・親子のふれあいなど、家族を大切にすること
 (性別、年齢別、居住地別、職業別)



()趣味やスポーツなどで余暇時間を楽しんだり、習い事や文化サークルで教養や技能を高めること

平成14年の県政世論調査と比較すると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は47.6%（平成14年調査）から46.3%（今回調査）と1.3ポイント低くなっている。

趣味やスポーツなどで余暇時間を楽しんだり、習い事や文化サークルで教養や技能を高めること（時系列比較）



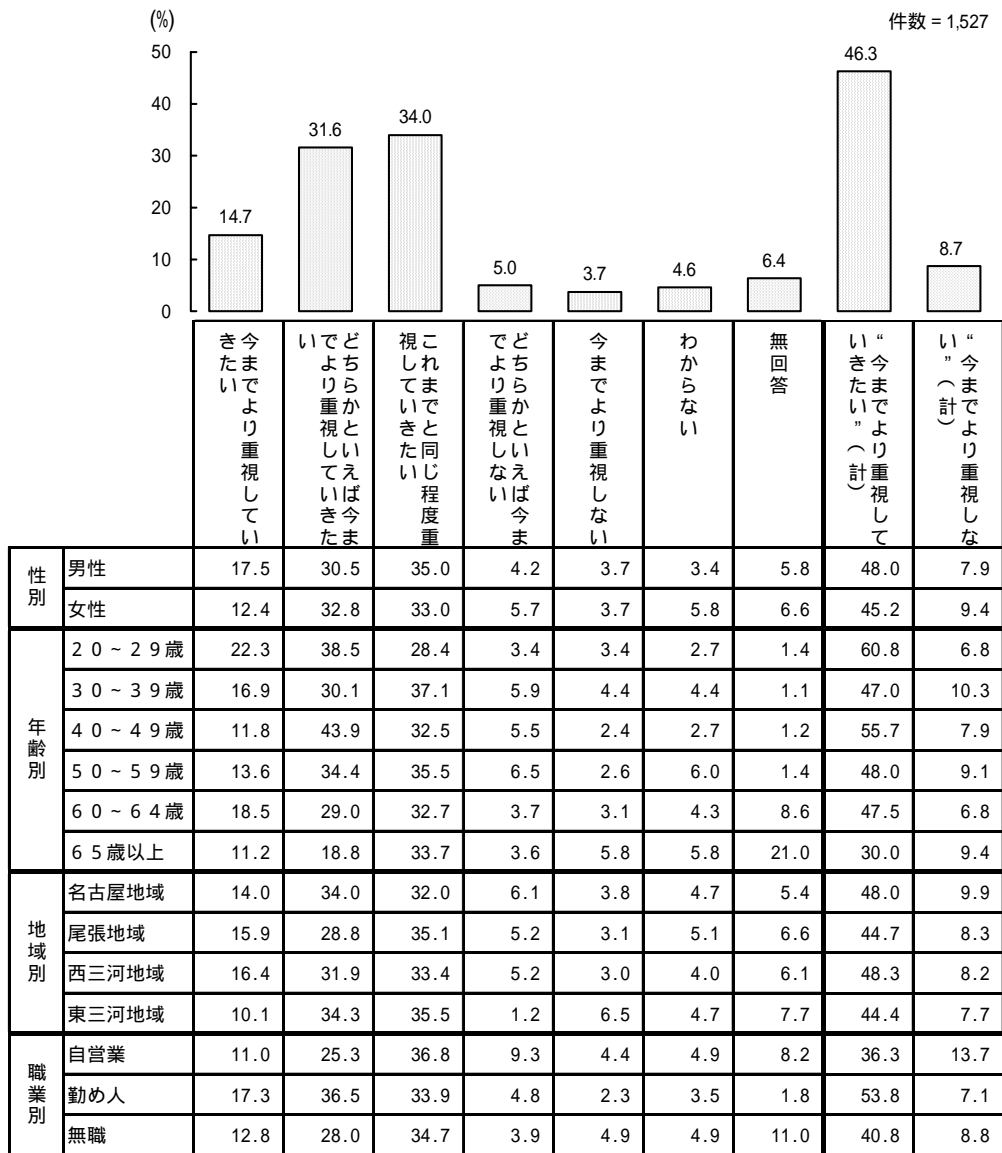
性別でみると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、女性（45.2%）より男性（48.0%）で2.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、20代（60.8%）と40代（55.7%）で高くなっている。

居住地域別でみると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、西三河地域（48.3%）と名古屋地域（48.0%）で高くなっている。

職業別でみると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、勤め人（53.8%）で高くなっている。

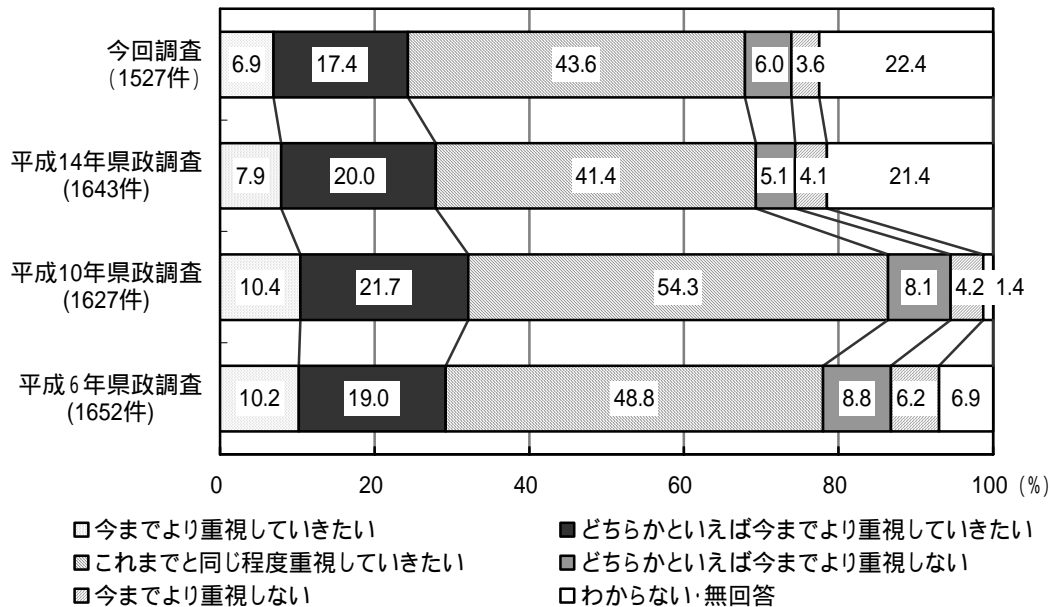
趣味やスポーツなどで余暇時間を楽しんだり、習い事や文化サークルで教養や技能を高めること（性別、年齢別、居住地別、職業別）



() ボランティア活動や環境美化活動などの社会活動に参加すること

平成 14 年の県政世論調査と比較すると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は 27.9%（平成 14 年調査）から 24.3%（今回調査）と 3.6 ポイント低くなっている。

ボランティア活動や環境美化活動などの社会活動に参加すること（時系列比較）



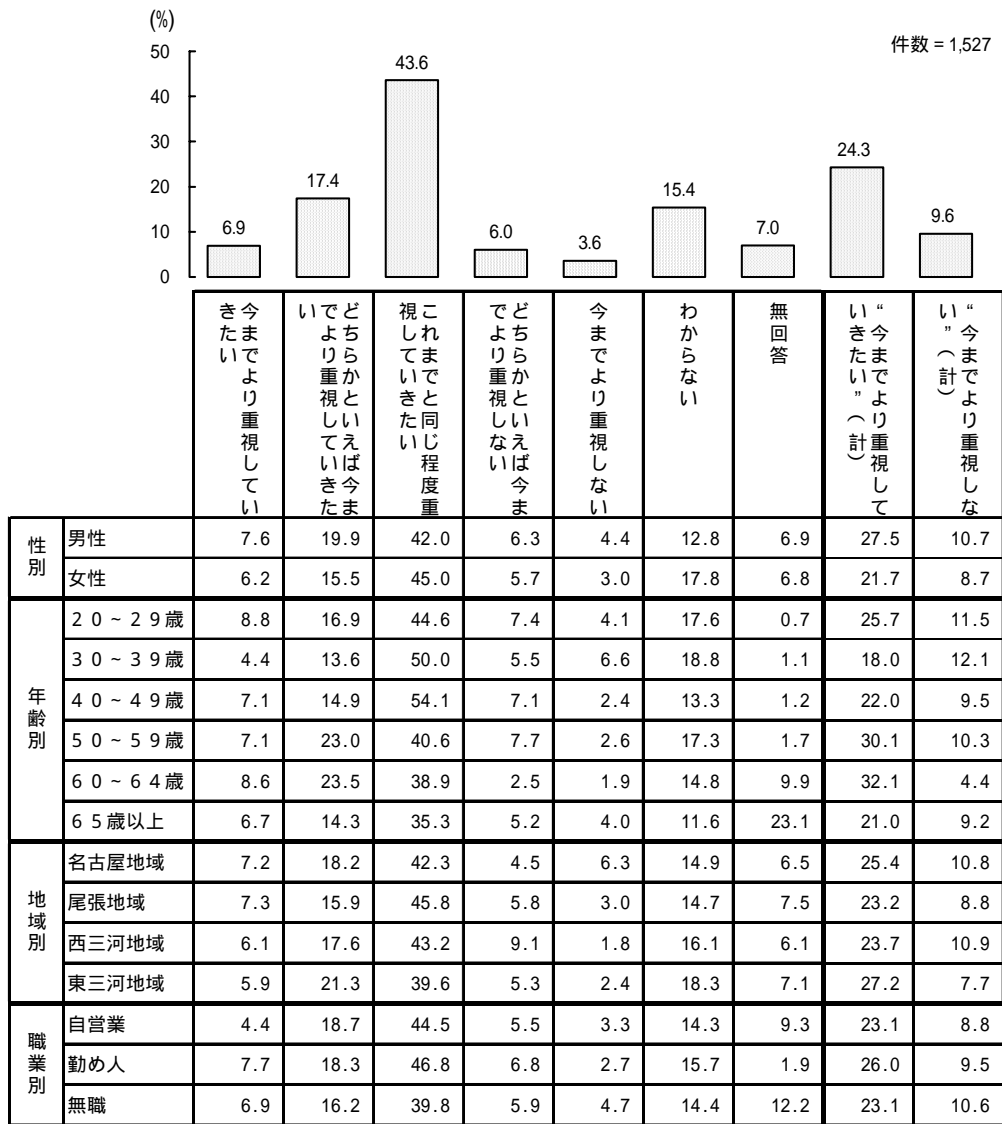
性別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、女性（21.7%）より男性（27.5%）で 5.8 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、50代（30.1%）と 60～64 歳（32.1%）で高くなっている。

居住地域別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、東三河地域（27.2%）でやや高くなっている。

職業別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、勤め人（26.0%）でやや高くなっている。

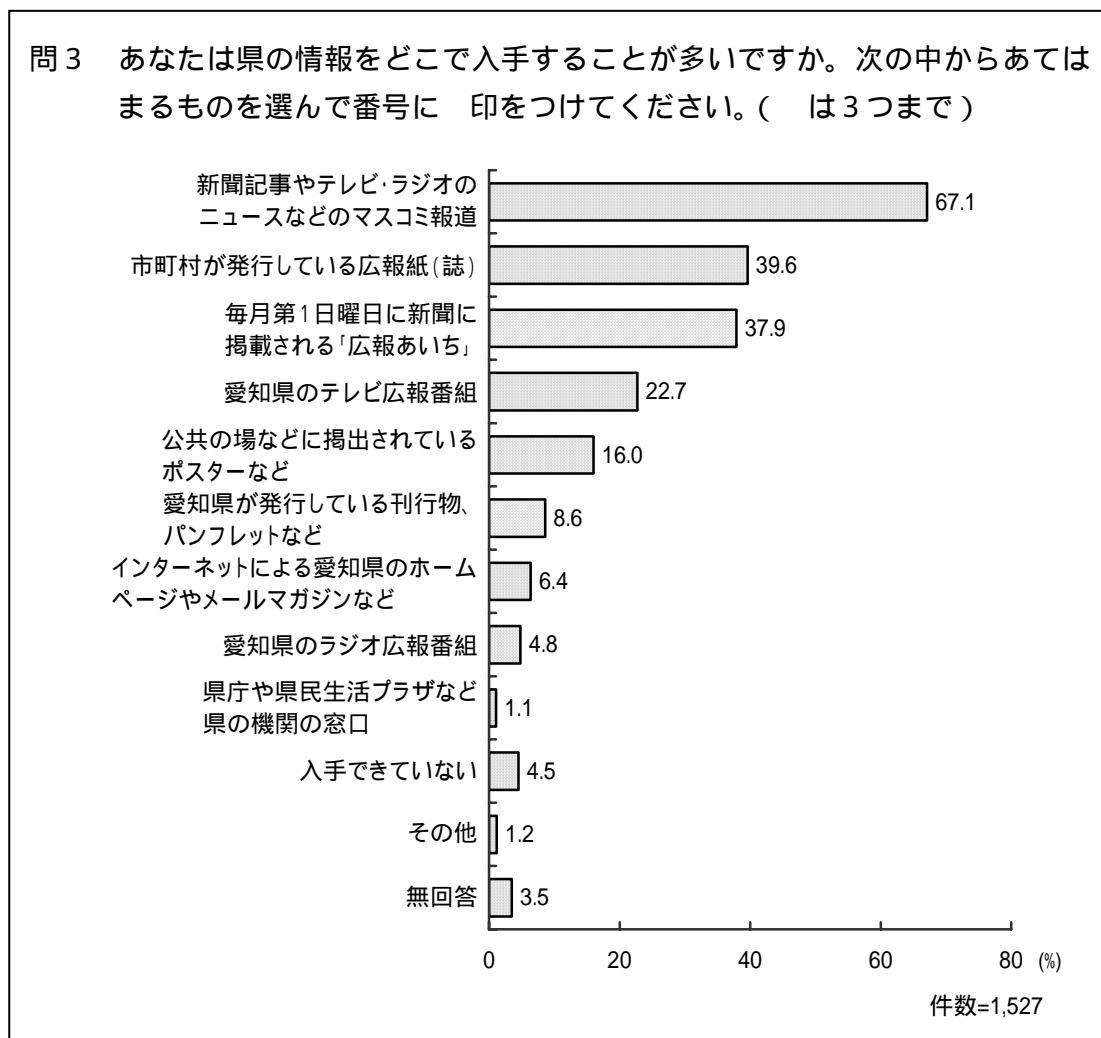
ボランティア活動や環境美化活動などの社会活動に参加すること
 (性別、年齢別、居住地域別、職業別)



2 広報活動

(1) 県の情報の入手方法

「**新聞記事やテレビ・ラジオのニュースなどのマスコミ報道**」が67%



県の情報の入手方法について、「新聞記事やテレビ・ラジオのニュースなどのマスコミ報道」と答えた人の割合が67.1%で最も高く、次いで「市町村が発行している広報紙(誌)」(39.6%)、「毎月第1日曜日に新聞に掲載される『広報あいち』」(37.9%)の順になっている。

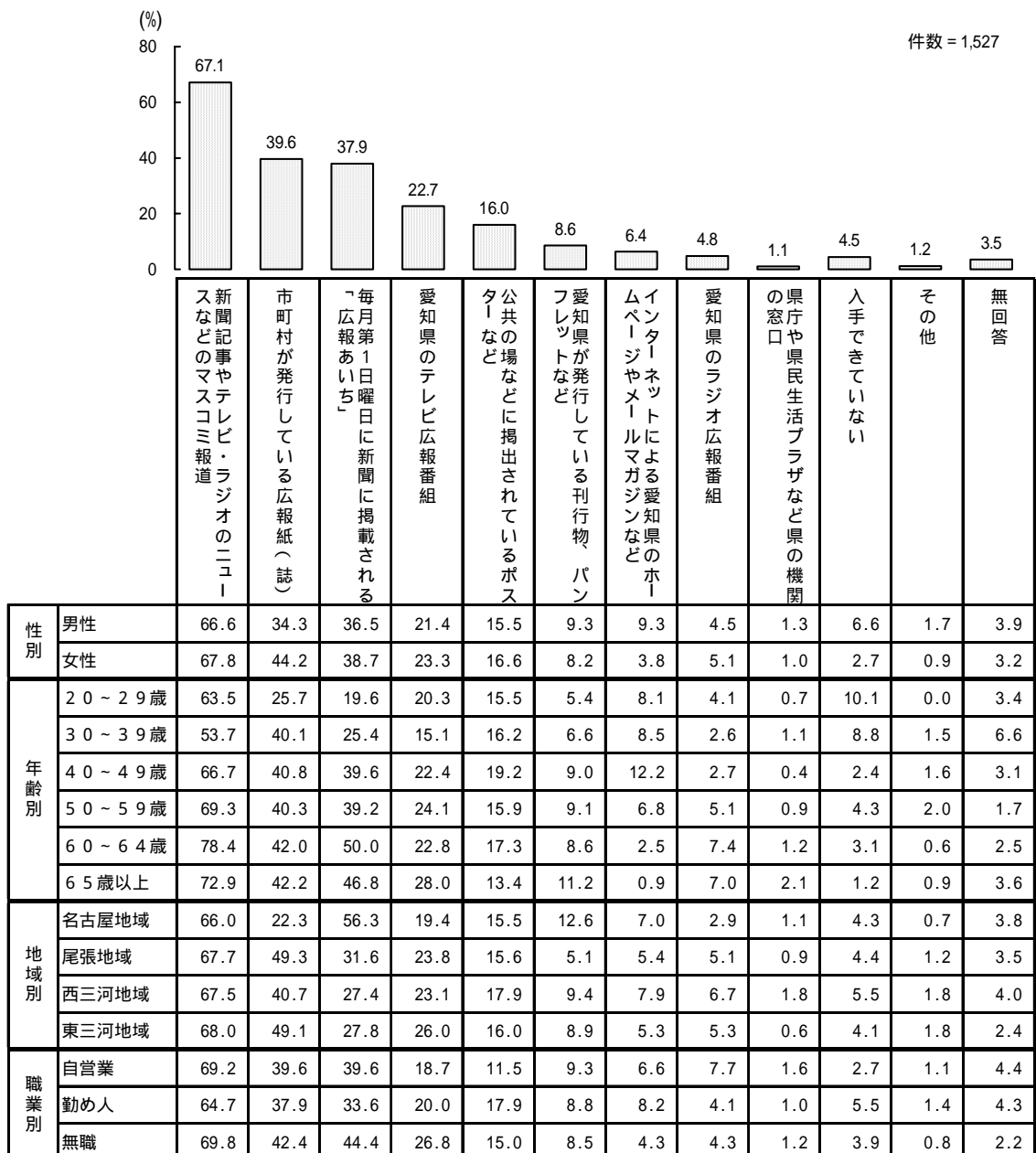
県の情報の入手方法（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、「市町村が発行している広報紙(誌)」と答えた人の割合は、男性(34.3%)より女性(44.2%)で9.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「市町村が発行している広報紙(誌)」と答えた人の割合は、20代(25.7%)で低く、「毎月第1日曜日に新聞に掲載される『広報あいち』」と答えた人の割合は、20代(19.6%)と30代(25.4%)で低くなっている。

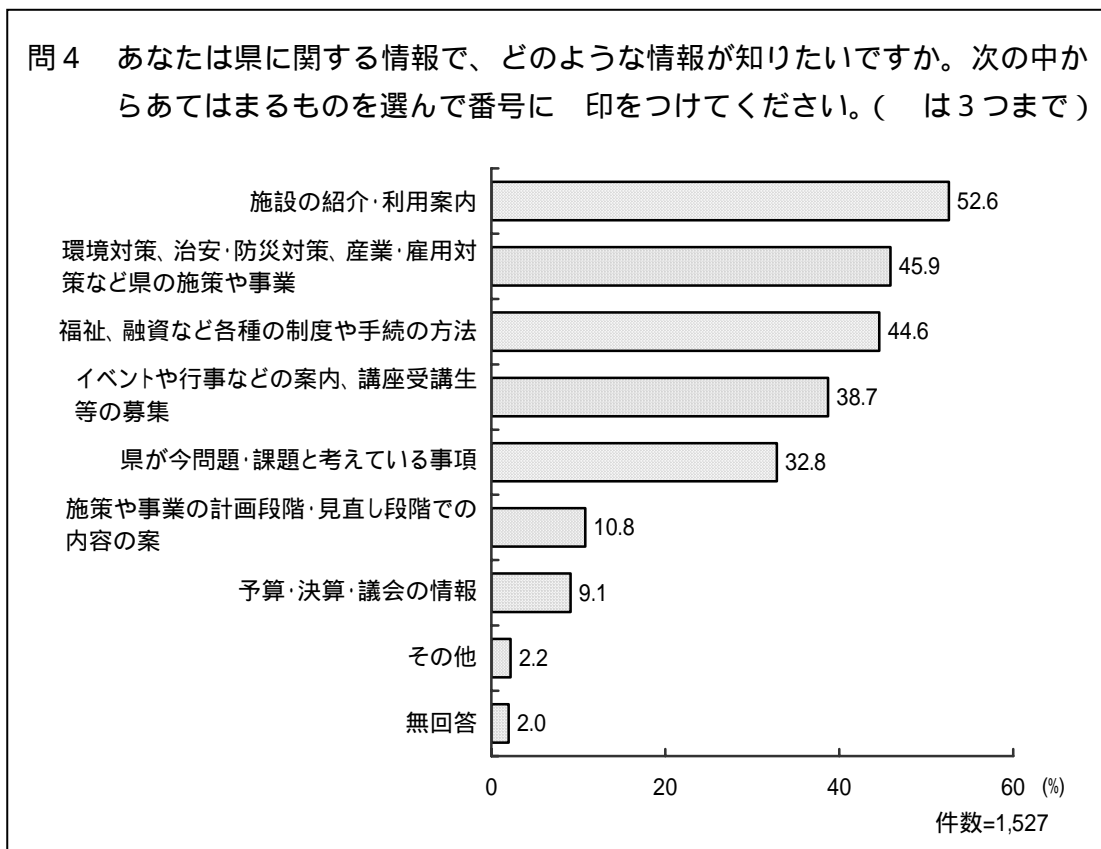
居住地域別で見ると、名古屋地域で「毎月第1日曜日に新聞に掲載される『広報あいち』」(56.3%)と答えた人の割合が高く、「市町村が発行している広報紙(誌)」(22.3%)と答えた人の割合が低くなっている。

職業別で見ると、「毎月第1日曜日に新聞に掲載される『広報あいち』」と答えた人の割合は、無職(44.4%)で高く、勤め人(33.6%)で低くなっている。



(2) 知りたい県の情報

「施設の紹介・利用案内」が53%



知りたい県の情報について、「施設の紹介・利用案内」と答えた人の割合が52.6%で最も高く、次いで「環境対策、治安・防災対策、産業・雇用対策など県の施策や事業」(45.9%)、「福祉、融資など各種の制度や手続の方法」(44.6%)の順になっている。

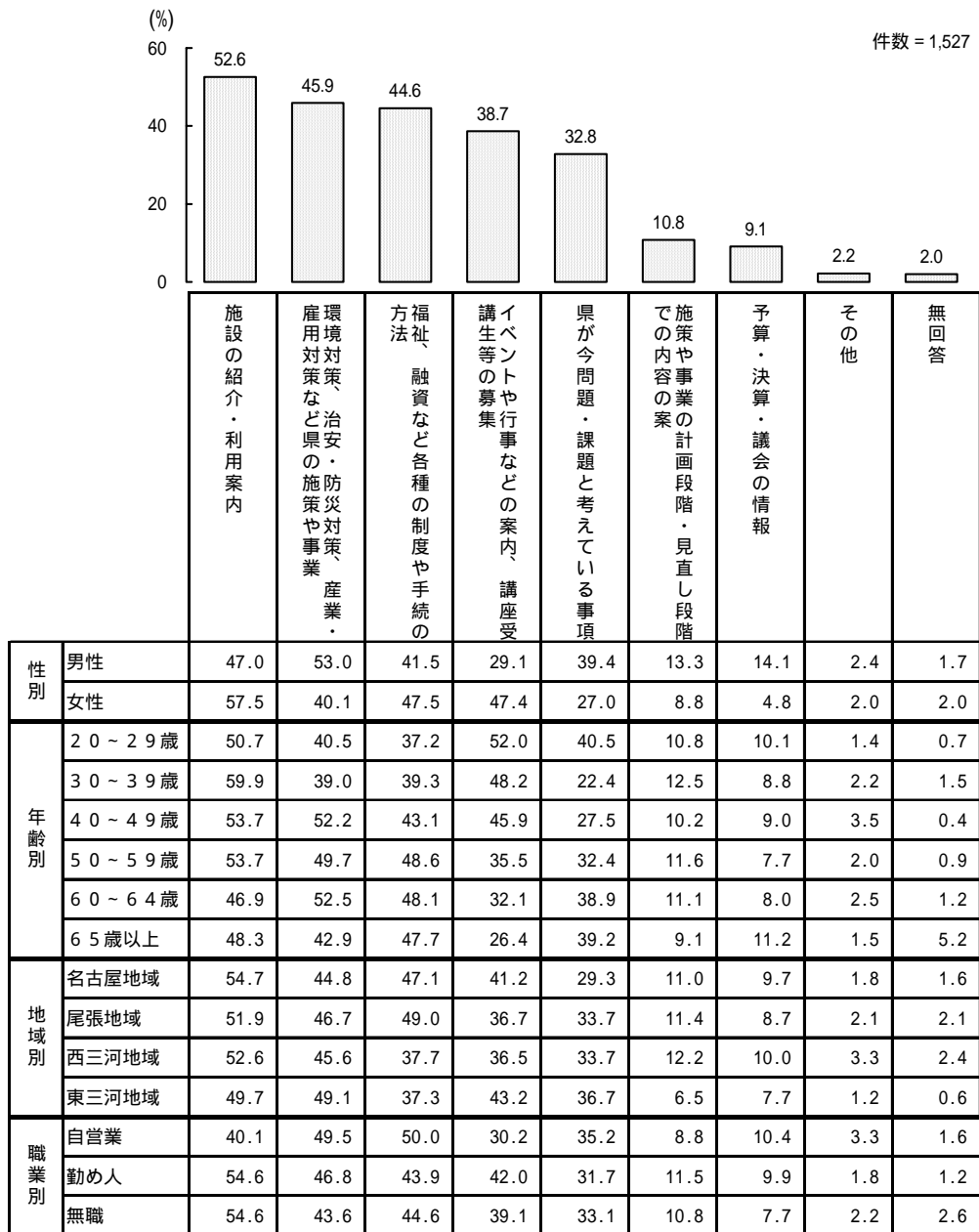
知りたい県の情報（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、男性は「環境対策、治安・防災対策、産業・雇用対策など県の施策や事業」(53.0%)と答えた人の割合が最も高いのに対し、女性は「施設の紹介・利用案内」(57.5%)と答えた人の割合が最も高くなっている。

年齢別で見ると、「イベントや行事などの案内、講座受講生等の募集」と答えた人の割合は、年齢が若いほど高くなっており、20代(52.0%)で5割を超えている。

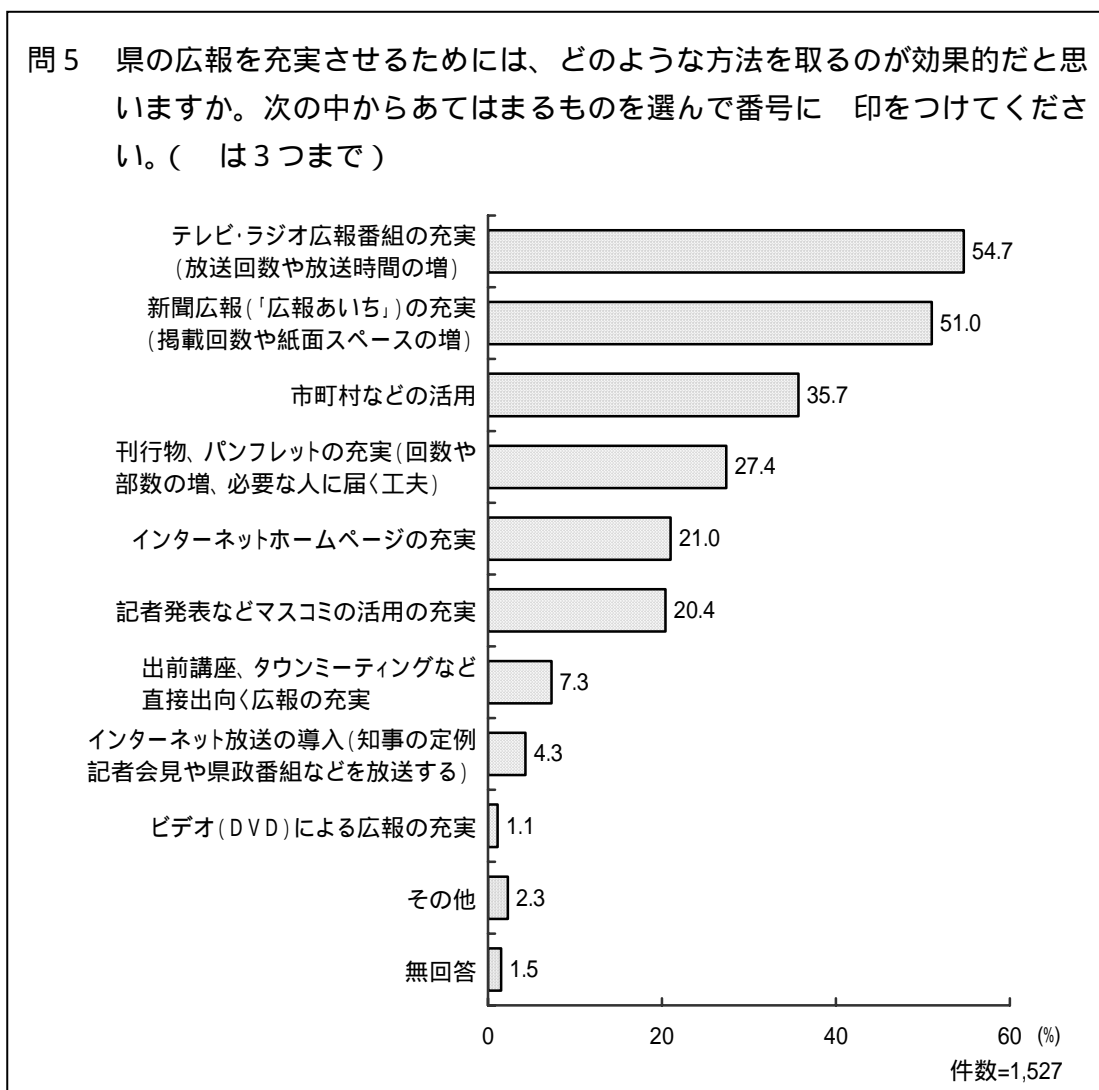
居住地域別で見ると、「福祉、融資など各種の制度や手続の方法」と答えた人の割合は、尾張地域(49.0%)、名古屋地域(47.1%)で高くなっている。

職業別で見ると、自営業は「福祉、融資など各種の制度や手続の方法」(50.0%)と答えた人の割合が最も高くなっている。



(3) 県の広報を充実させる効果的な方法

「テレビ・ラジオ広報番組の充実(放送回数や放送時間の増)」が55%



県の広報を充実させる効果的な方法について、「テレビ・ラジオ広報番組の充実(放送回数や放送時間の増)」と答えた人の割合が54.7%で最も高く、次いで「新聞広報(『広報あいち』)の充実(掲載回数や紙面スペースの増)」(51.0%)、「市町村などの活用」(35.7%)の順になっている。

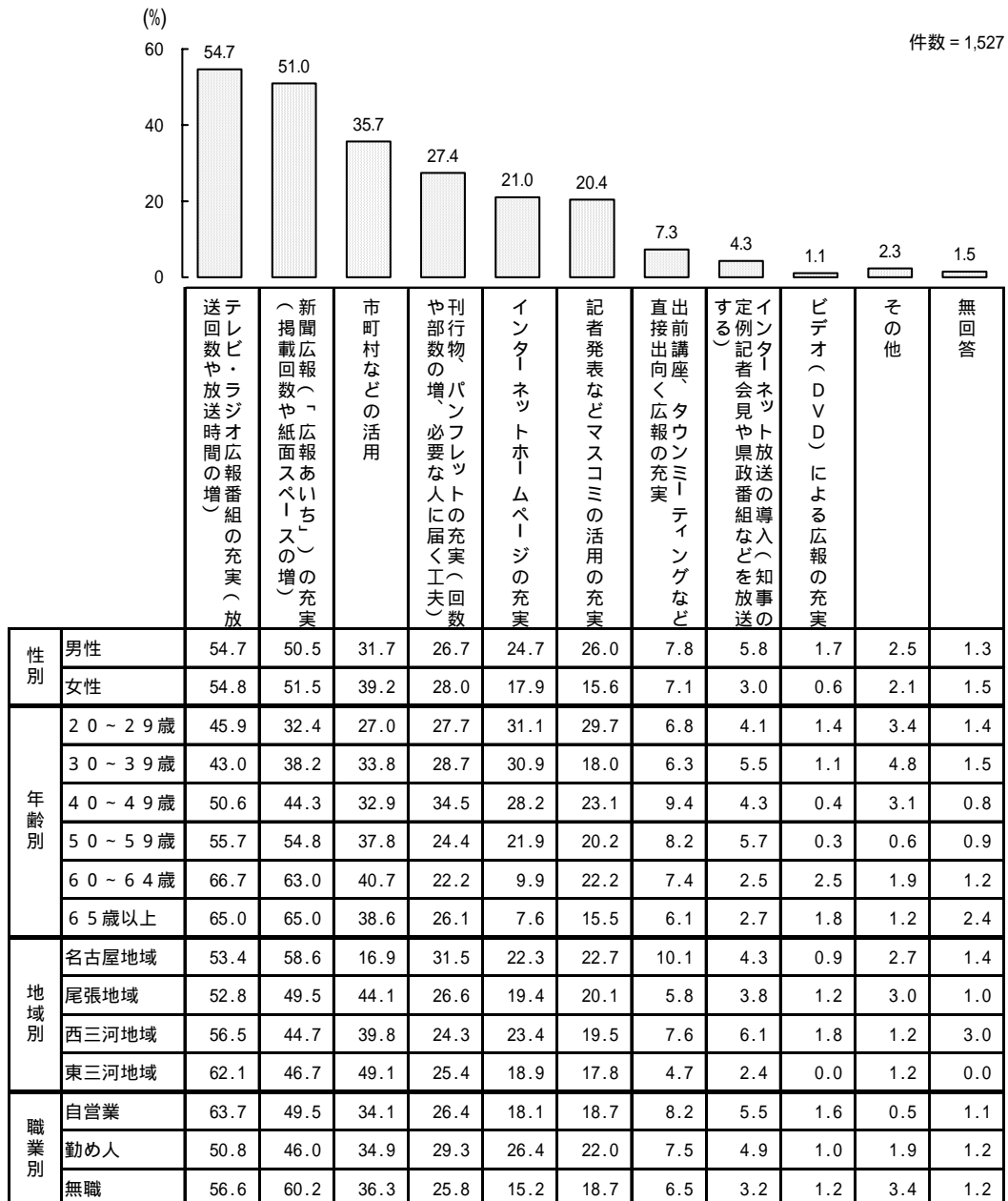
県の広報を充実させる効果的な方法（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、「記者発表などマスコミの活用の充実」と答えた人の割合は、女性（15.6%）より男性（26.0%）で10.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「テレビ・ラジオ広報番組の充実（放送回数や放送時間の増）」や「新聞広報（『広報あいち』）の充実（掲載回数や紙面スペースの増）」と答えた人の割合は、60代以上でともに6割を超えている。また、「インターネットホームページの充実」と答えた人の割合は、年齢が若いほど高くなっている。

居住地域別で見ると、「テレビ・ラジオ広報番組の充実（放送回数や放送時間の増）」と答えた人の割合は、東三河地域（62.1%）で高くなっている。

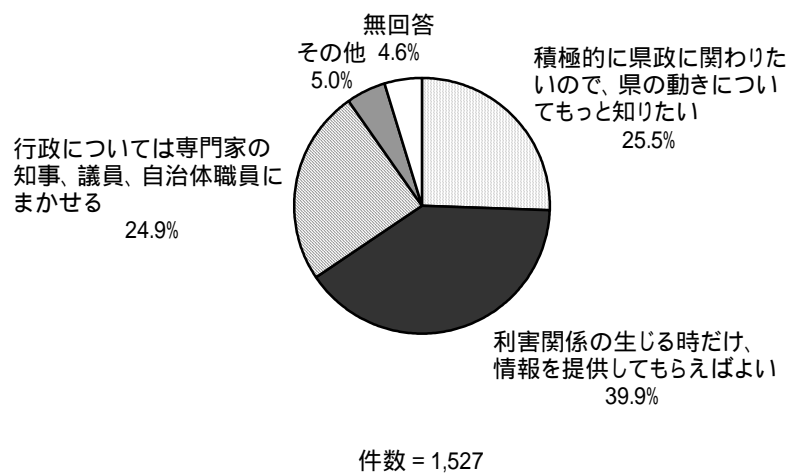
職業別で見ると、無職は「新聞広報（『広報あいち』）の充実（掲載回数や紙面スペースの増）」（60.2%）と答えた人の割合が最も高くなっている。



(4) 協働のための情報提供のあり方

「積極的に県政に関わりたいので、県の動きについてもっと知りたい」が26%

問6 地域の経営は、そこに住む住民と自治体が協働して行っていくのが望ましいと言われていますが、そのための情報提供についてあなたの意見はどうですか。次の中からあてはまるものを選んで番号に 印をつけてください。(1 は1つ)



住民と自治体が協働して地域経営を行っていくための情報提供のあり方について、「利害関係の生じる時だけ、情報を提供してもらえばよい」と答えた人の割合が39.9%で最も高く、次いで「積極的に県政に関わりたいので、県の動きについてもっと知りたい」(25.5%)、「行政については専門家の知事、議員、自治体職員にまかせる」(24.9%)の順になっている。

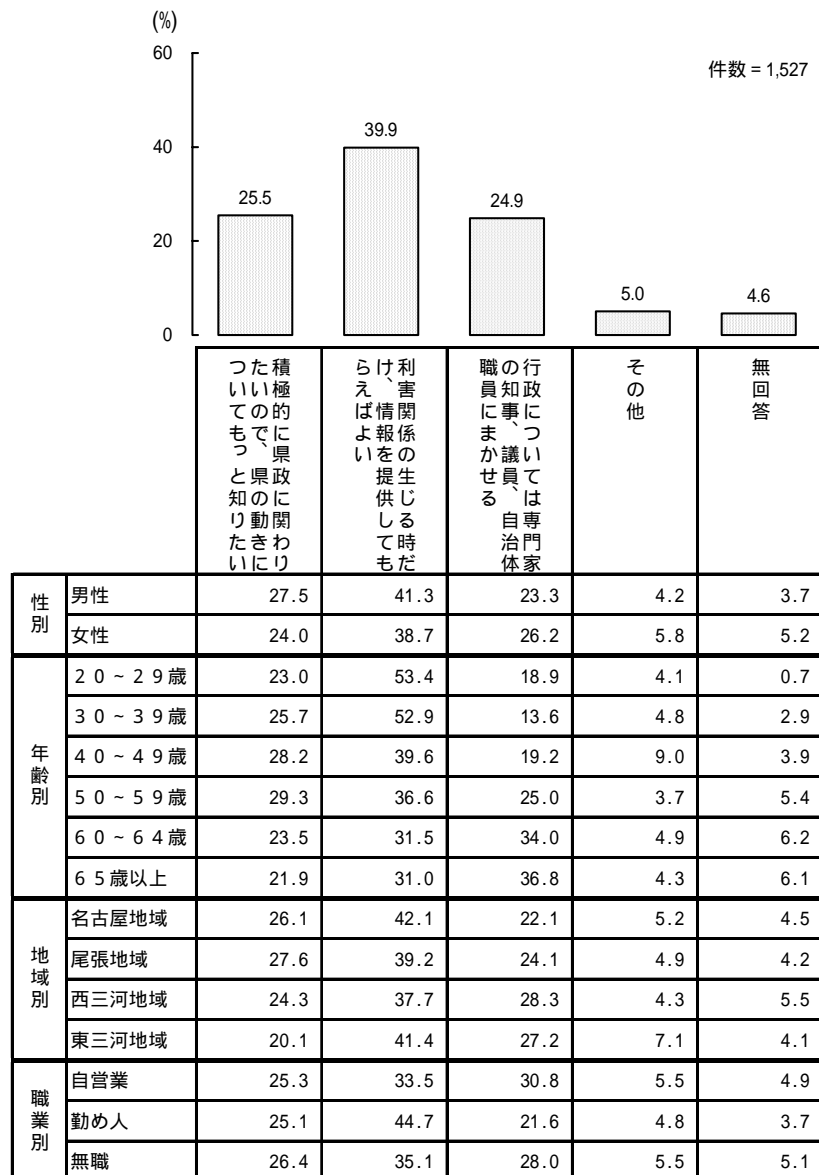
協働のための情報提供のあり方（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、「積極的に県政に関わりたいので、県の動きについてもっと知りたい」と答えた人の割合は、女性（24.0%）より男性（27.5%）で3.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「利害関係の生じる時だけ、情報を提供してもらえばよい」と答えた人の割合は、年齢が若いほど高くなっており、30代以下で5割を超えている。

居住地域別で見ると、「積極的に県政に関わりたいので、県の動きについてもっと知りたい」と答えた人の割合は、東三河地域（20.1%）で低くなっている。

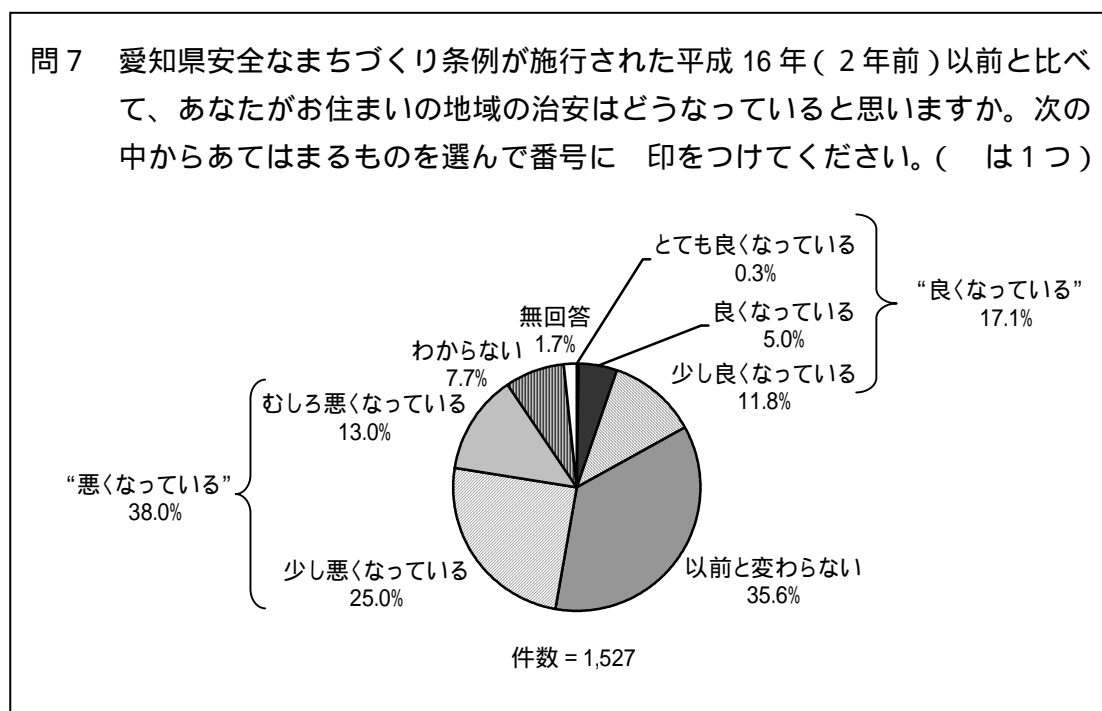
職業別で見ると、勤め人で「利害関係の生じる時だけ、情報を提供してもらえばよい」（44.7%）と答えた人の割合が高く、「行政については専門家の知事、議員、自治体職員にまかせる」（21.6%）と答えた人の割合が低くなっている。



3 治安回復

(1) 安全なまちづくり条例施行後の地域治安の変化

“良くなっている”が17%、“悪くなっている”が38%

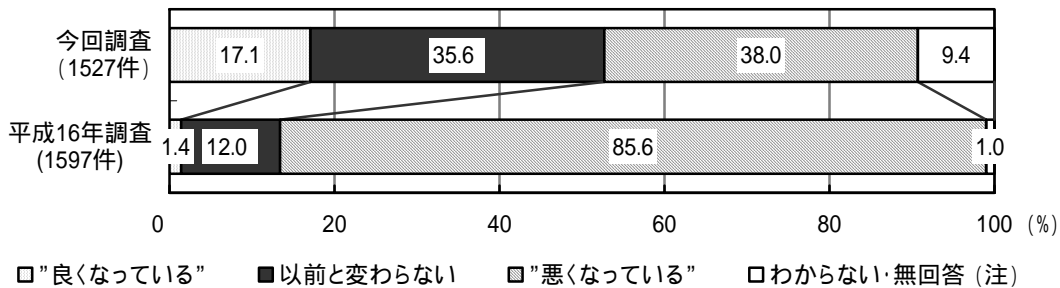


安全なまちづくり条例施行後の地域治安の変化について、“良くなっている”(「とても良くなっている」+「良くなっている」+「少し良くなっている」と答えた人の割合は17.1%となっている。一方で、“悪くなっている”(「少し悪くなっている」+「むしろ悪くなっている」と答えた人の割合は38.0%となっている。

安全なまちづくり条例施行後の地域治安の変化（時系列比較）

平成 16 年の県政世論調査と比較すると、“良くなっている”と答えた人の割合は 1.4%（平成 16 年調査）から 17.1%（今回調査）と 15.7 ポイント高くなっている。

一方、“悪くなっている”と答えた人の割合は 85.6%（平成 16 年調査）から 38.0%（今回調査）と 47.6 ポイント低くなっている。



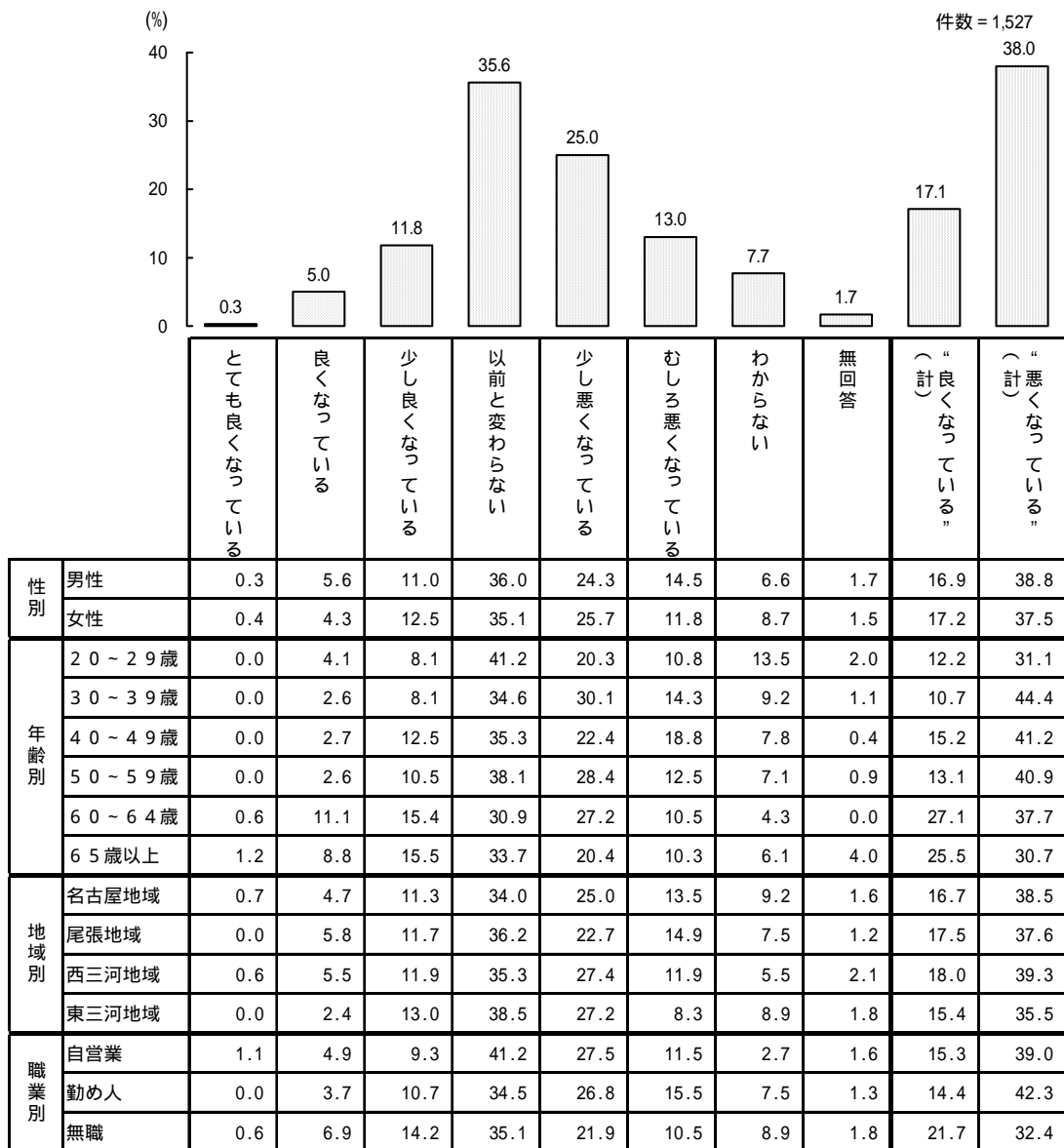
(注) 平成16年調査では「わからない」は選択肢として含まれていない

安全なまちづくり条例施行後の地域治安の変化 （性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、“良くなっている” “悪くなっている”とも大きな差異はみられない。
年齢別で見ると、“良くなっている”と答えた人の割合は、60代以上(60～64歳 27.1%、65歳以上 25.5%)で高く、“悪くなっている”と答えた人の割合は、30代(44.4%)で高くなっている。

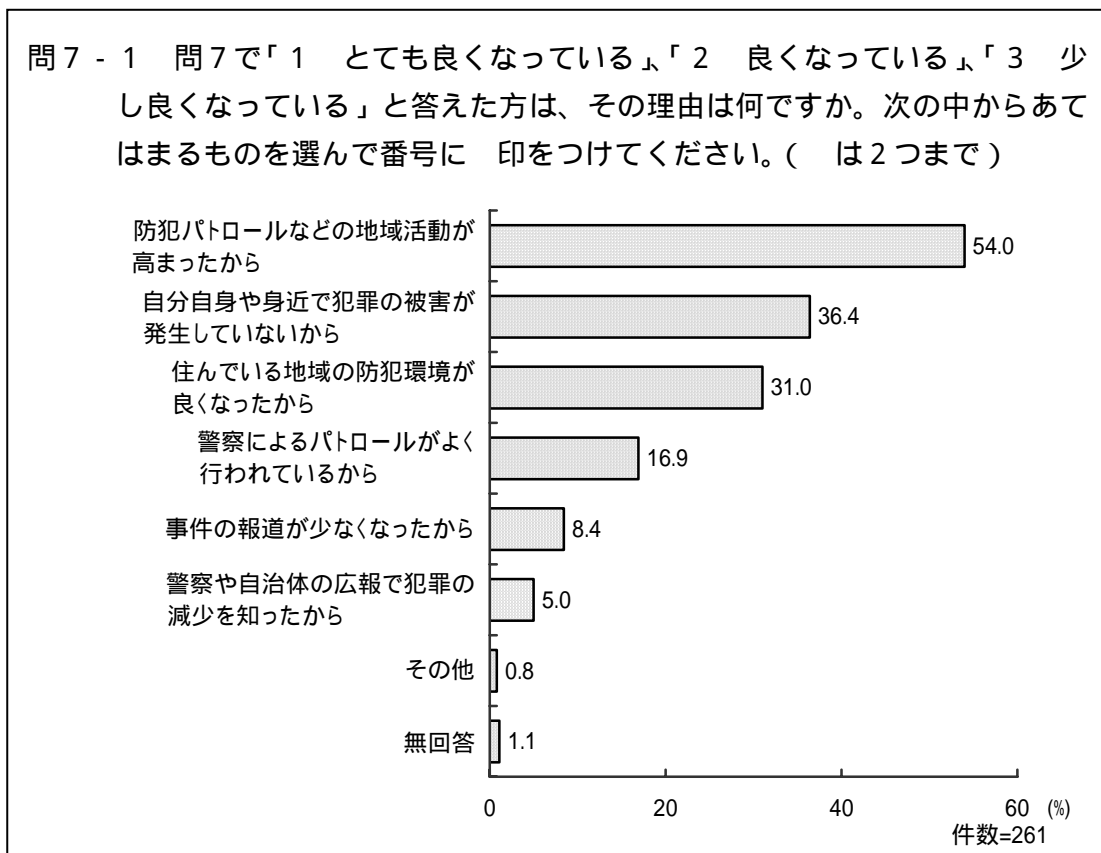
居住地域別で見ると、“良くなっている” “悪くなっている”とも大きな差異はみられない。

職業別で見ると、“良くなっている”と答えた人の割合は、無職(21.7%)で高く、“悪くなっている”と答えた人の割合は、勤め人(42.3%)で高くなっている。



(2)良くなっている理由

「防犯パトロールなどの地域活動が高まったから」が54%



“良くなっている”理由として、「防犯パトロールなどの地域活動が高まったから」と答えた人の割合が54.0%で最も高く、次いで「自分自身や身近で犯罪の被害が発生していないから」(36.4%)、「住んでいる地域の防犯環境が良くなったから」(31.0%)の順になっている。

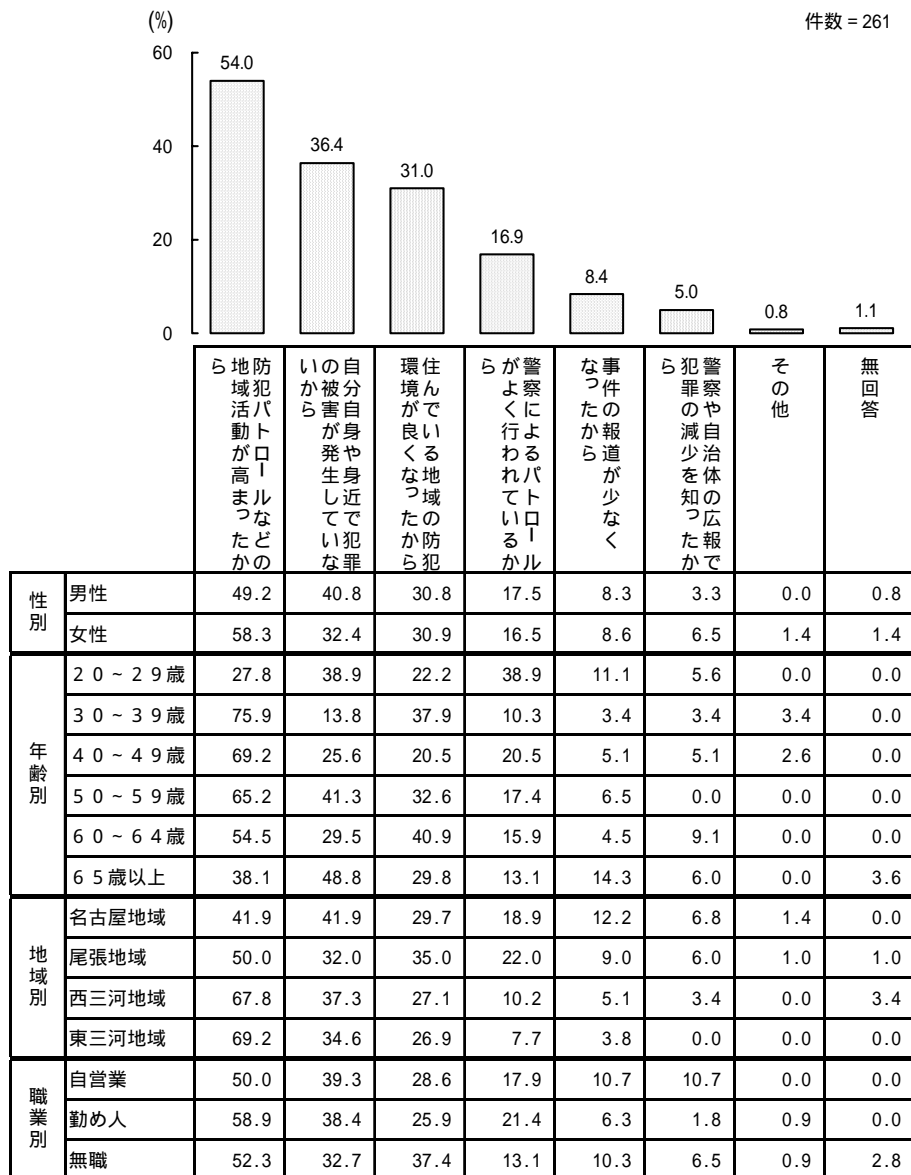
良くなっている理由（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、「防犯パトロールなどの地域活動が高まったから」と答えた人の割合は、女性（58.3%）で6割に近くなっている。

年齢別で見ると、「防犯パトロールなどの地域活動が高まったから」と答えた人の割合は、30代（75.9%）で7割台半ばとなっている。

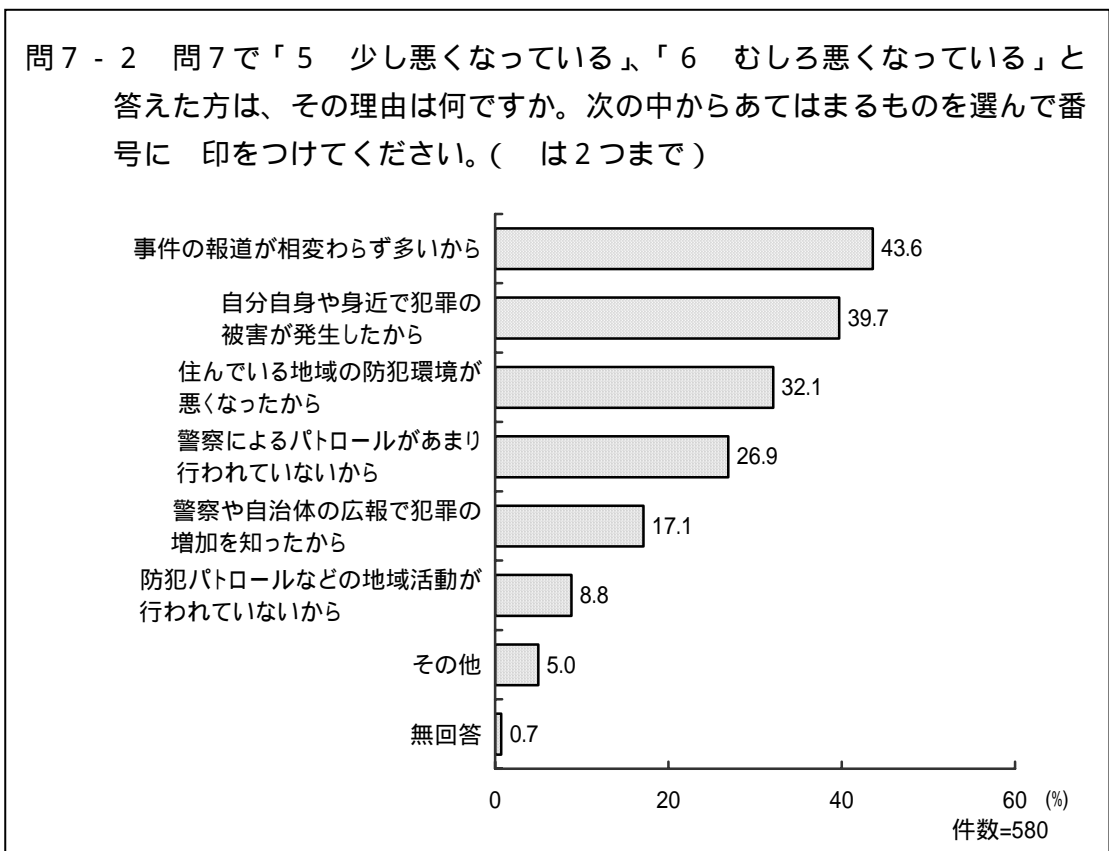
居住地域別で見ると、「防犯パトロールなどの地域活動が高まったから」と答えた人の割合は、東三河地域（69.2%）、西三河地域（67.8%）で7割に近く、名古屋地域（41.9%）では4割程度となっている。また、「自分自身や身近で犯罪の被害が発生していないから」と答えた人の割合は、名古屋地域（41.9%）で4割を超えている。

職業別で見ると、「防犯パトロールなどの地域活動が高まったから」と答えた人の割合は、勤め人（58.9%）で6割に近くなっている。



(3) 悪くなっている理由

「事件の報道が相変わらず多いから」が44%



“悪くなっている”理由として、「事件の報道が相変わらず多いから」と答えた人の割合が43.6%で最も高く、次いで「自分自身や身近で犯罪の被害が発生したから」(39.7%)、「住んでいる地域の防犯環境が悪くなったから」(32.1%)の順になっている。

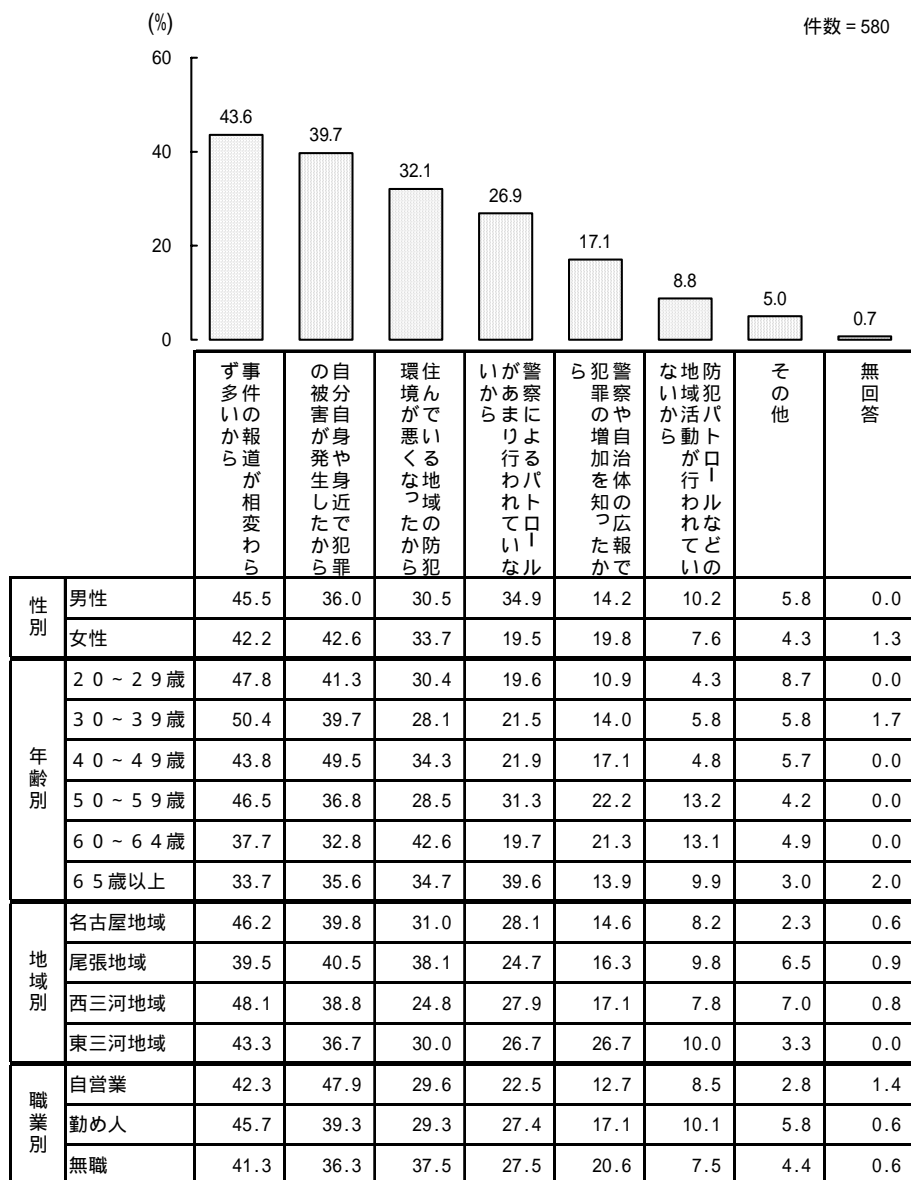
悪くなっている理由（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、男性は「事件の報道が相変わらず多いから」(45.5%)と答えた人の割合が最も高く、女性は「自分自身や身近で犯罪の被害が発生したから」(42.6%)と答えた人の割合が最も高くなっている。

年齢別で見ると、「事件の報道が相変わらず多いから」と答えた人の割合は、30代(50.4%)で5割を超えており、「自分自身や身近で犯罪の被害が発生したから」と答えた人の割合は、40代(49.5%)で5割に近くなっている。

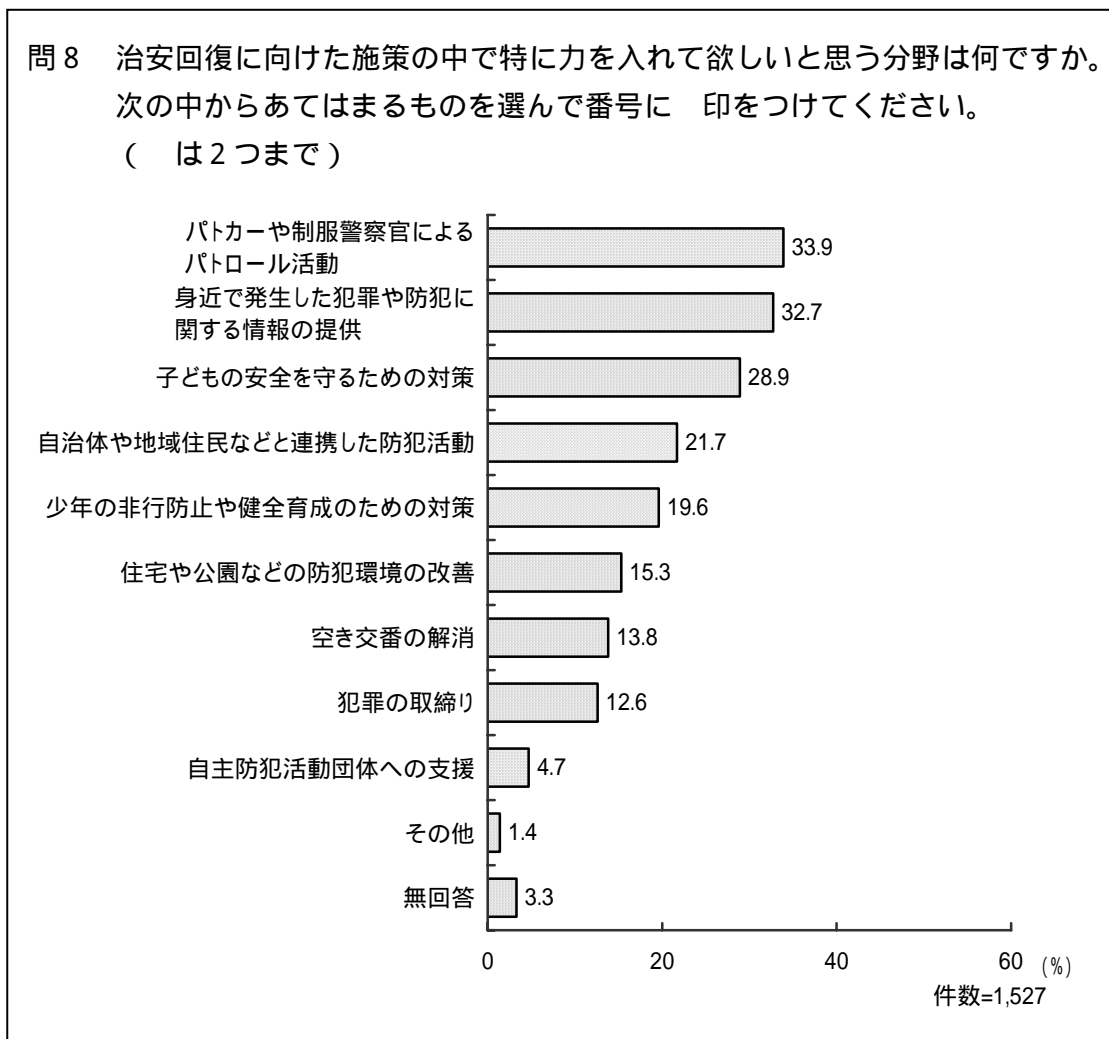
居住地域別で見ると、「事件の報道が相変わらず多いから」と答えた人の割合は、西三河地域(48.1%)で5割に近く、尾張地域(39.5%)で4割を下回っている。

職業別で見ると、「自分自身や身近で犯罪の被害が発生したから」と答えた人の割合は、自営業(47.9%)で5割に近くなっている。



(4) 治安回復で力を入れてほしいこと

「パトカーや制服警察官によるパトロール活動」が34%



治安回復で力を入れてほしいことについて、「パトカーや制服警察官によるパトロール活動」と答えた人の割合が33.9%で最も高く、次いで「身近で発生した犯罪や防犯に関する情報の提供」(32.7%)、「子どもの安全を守るための対策」(28.9%)の順になっている。

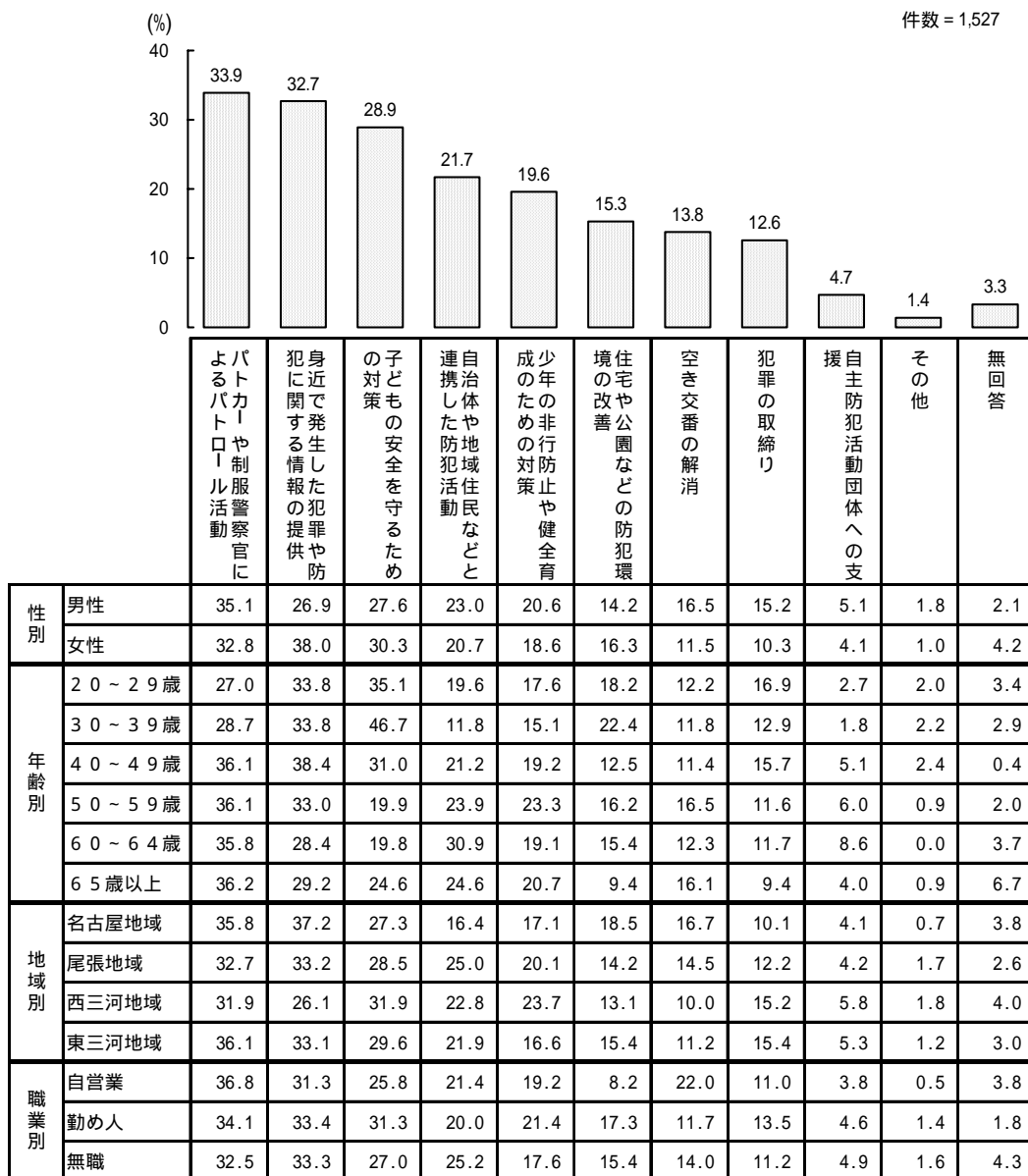
治安回復で力を入れてほしいこと（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、「身近で発生した犯罪や防犯に関する情報の提供」と答えた人の割合は、男性（26.9%）より女性（38.0%）で11.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「子どもの安全を守るための対策」と答えた人の割合は、30代（46.7%）で高く、「自治体や地域住民などと連携した防犯活動」と答えた人の割合は、60～64歳（30.9%）で高くなっている。

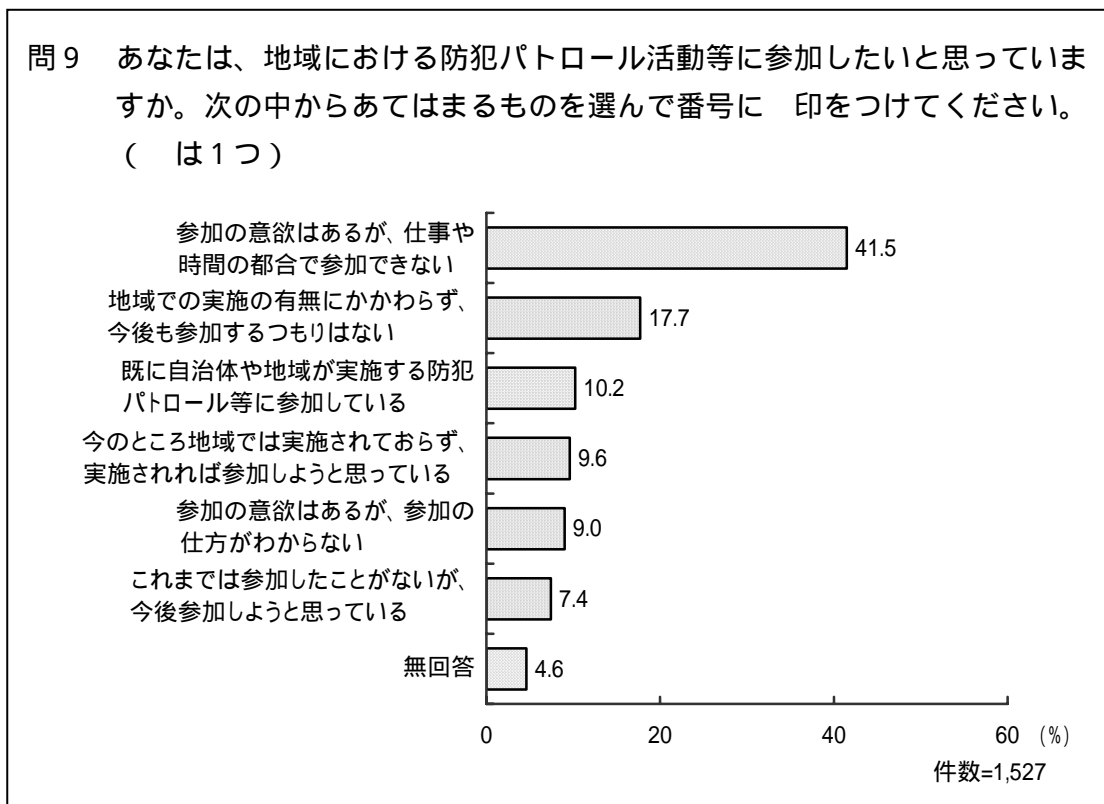
居住地域別で見ると、「身近で発生した犯罪や防犯に関する情報の提供」と答えた人の割合は、名古屋地域（37.2%）で高く、西三河地域（26.1%）で低くなっている。

職業別で見ると、「子どもの安全を守るための対策」と答えた人の割合は、勤め人（31.3%）で高く、「空き交番の解消」と答えた人の割合は、自営業（22.0%）で高くなっている。



(5) 防犯パトロールの参加意思

「参加の意欲はあるが、仕事や時間の都合で参加できない」が42%



防犯パトロールの参加意思について、「参加の意欲はあるが、仕事や時間の都合で参加できない」と答えた人の割合が41.5%で最も高くなっている。一方で、「地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない」と答えた人の割合は17.7%となっている。

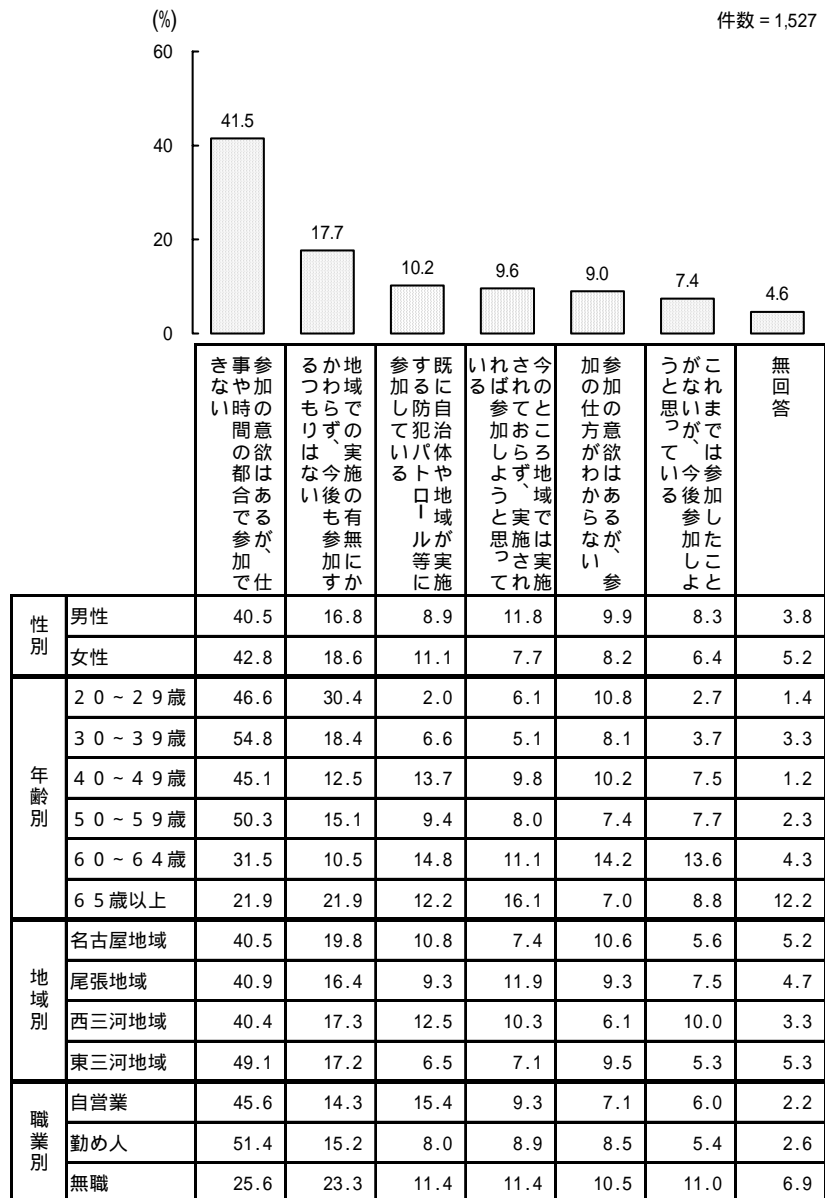
防犯パトロールの参加意思（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別でみると、「今のところ地域では実施されておらず、実施されれば参加しようと思っている」と答えた人の割合は、女性（7.7%）より男性（11.8%）で4.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「参加の意欲はあるが、仕事や時間の都合で参加できない」と答えた人の割合は、30代（54.8%）で高く、「地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない」と答えた人の割合は、20代（30.4%）で高くなっている。

居住地域別でみると、「参加の意欲はあるが、仕事や時間の都合で参加できない」と答えた人の割合は、東三河地域（49.1%）で高く、「地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない」と答えた人の割合は、名古屋地域（19.8%）で高くなっている。

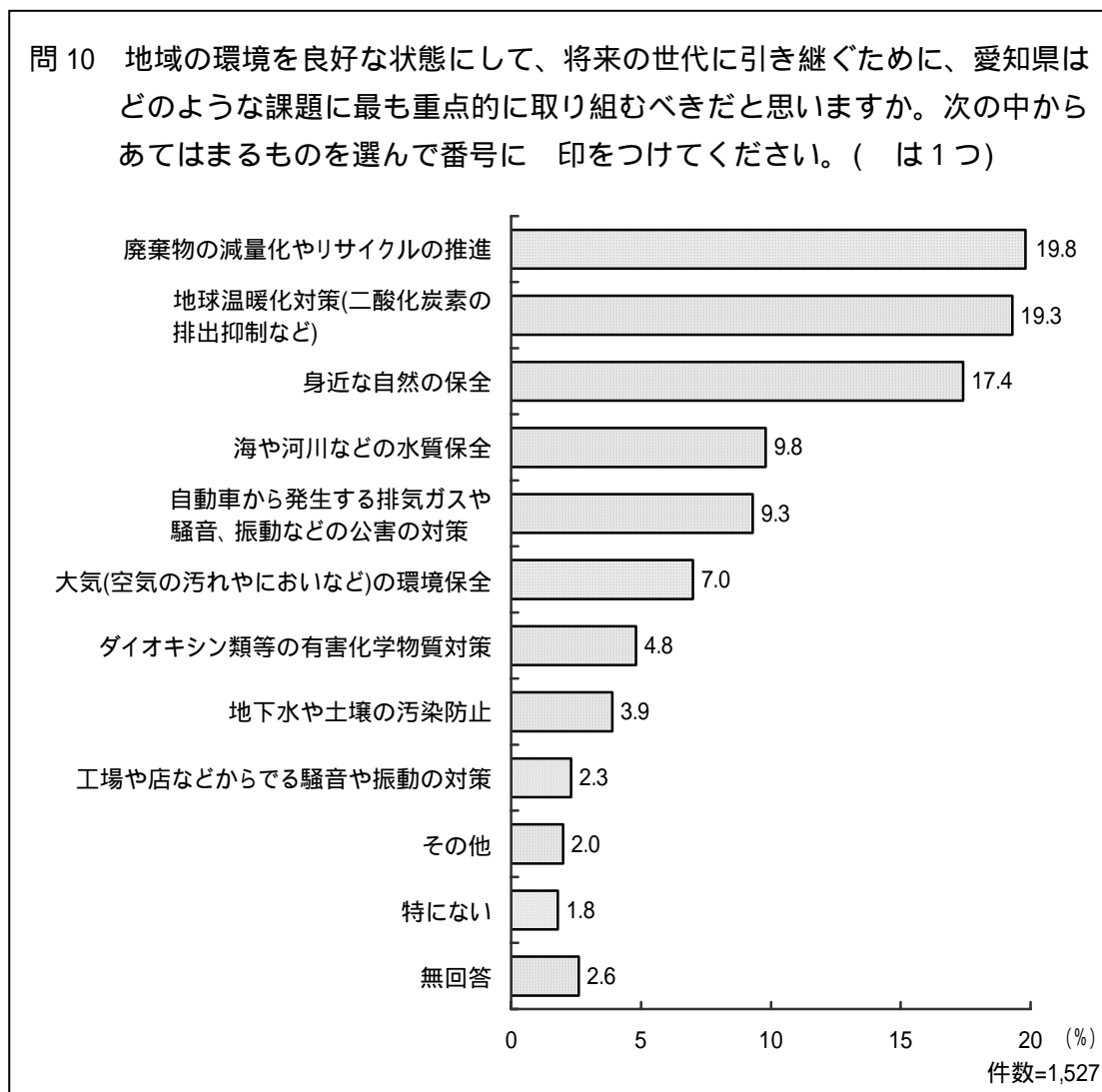
職業別でみると、「参加の意欲はあるが、仕事や時間の都合で参加できない」と答えた人の割合は、勤め人（51.4%）で高くなっている。



4 環境政策

(1) 良好な環境づくりのために取り組むべき課題

「**廃棄物の減量化やリサイクルの推進**」が20%



良好な環境づくりのために取り組むべき課題について、「廃棄物の減量化やリサイクルの推進」と答えた人の割合が19.8%で最も高く、次いで「地球温暖化対策(二酸化炭素の排出抑制など)」(19.3%)、「身近な自然の保全」(17.4%)の順になっている。

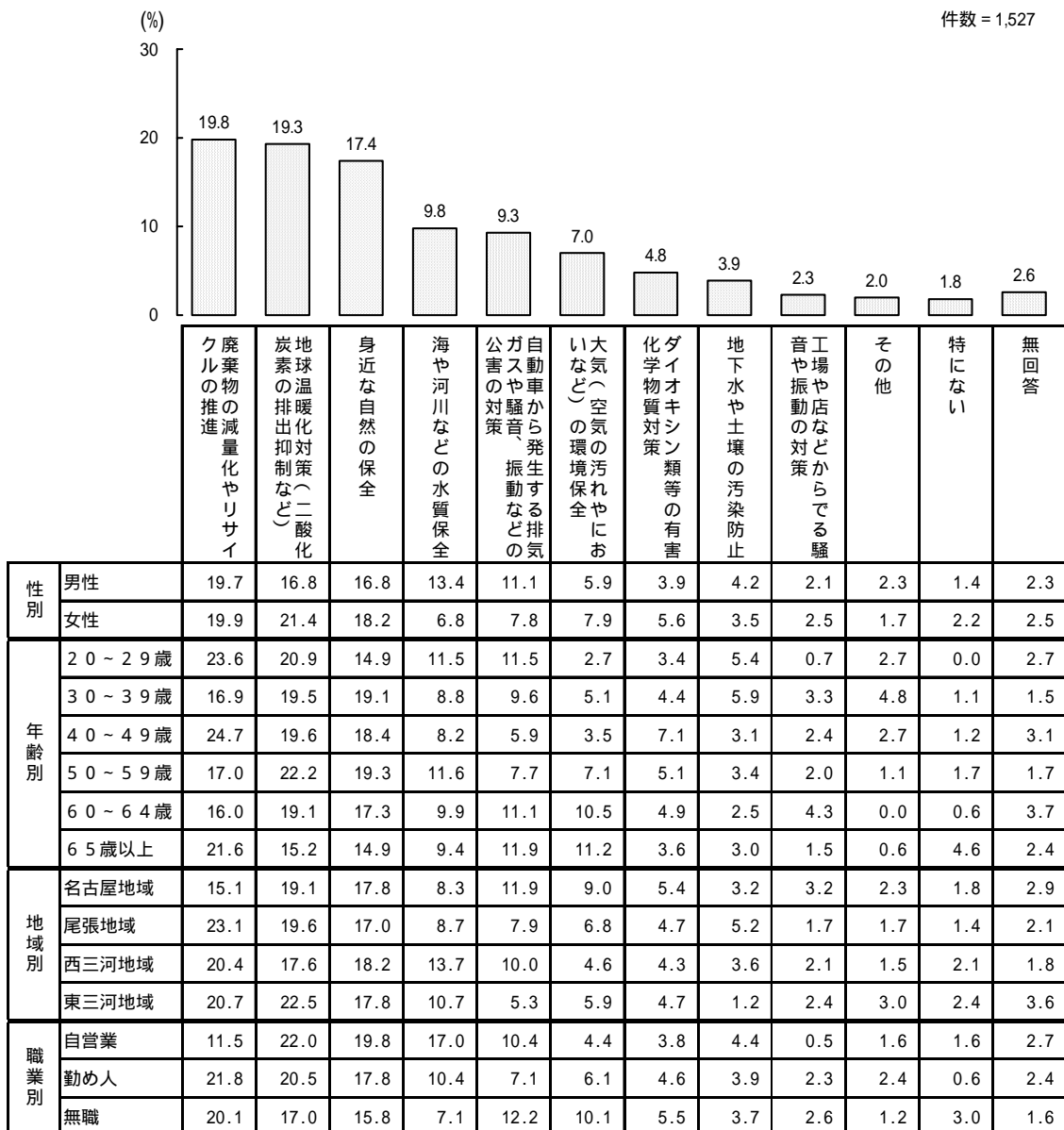
良好な環境づくりのために取り組むべき課題 (性別、年齢別、居住地域別、職業別)

性別でみると、男性は「廃棄物の減量化やリサイクルの推進」(19.7%)と答えた人の割合が最も高いのに対し、女性は「地球温暖化対策(二酸化炭素の排出抑制など)」(21.4%)と答えた人の割合が最も高くなっている。

年齢別でみると、「廃棄物の減量化やリサイクルの推進」と答えた人の割合は、40代(24.7%)と20代(23.6%)で高くなっている。また、「大気(空気の汚れやにおいなど)の環境保全」と答えた人の割合は、60代以上で1割を超えている。

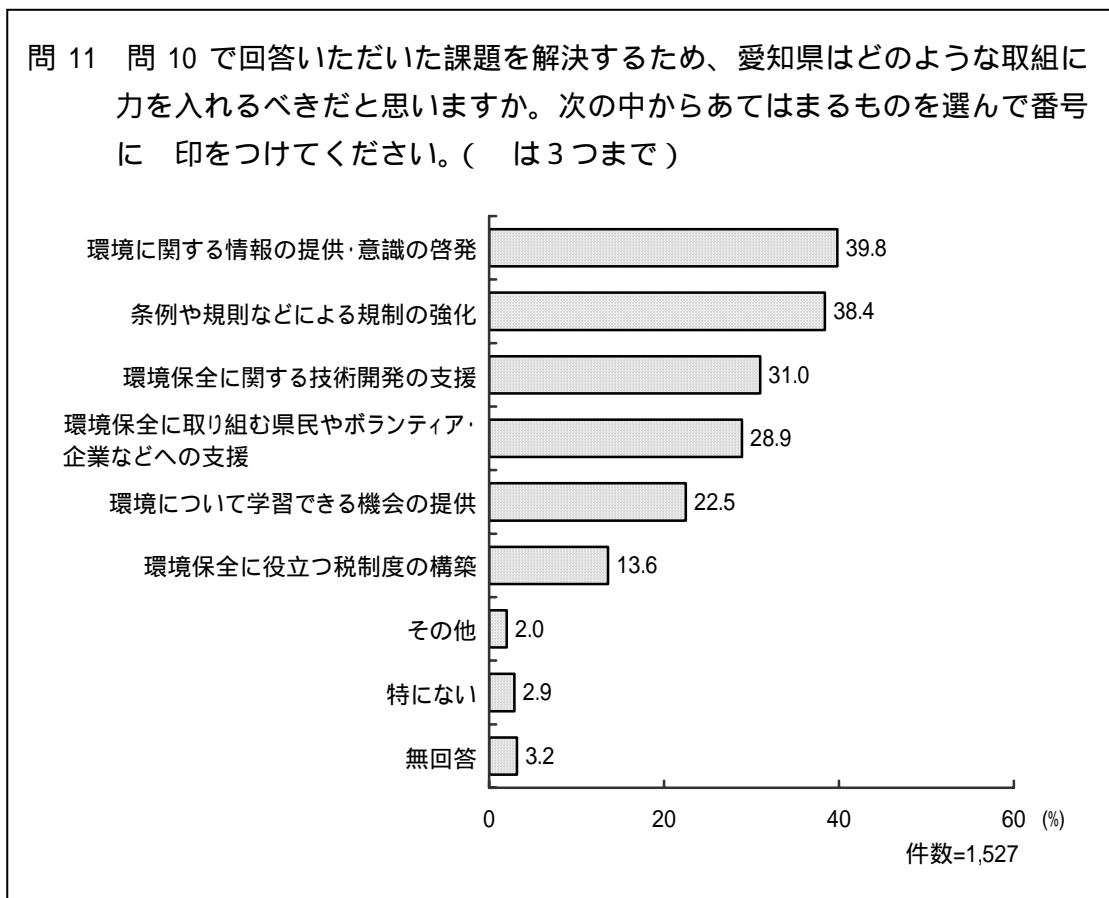
居住地域別でみると、「廃棄物の減量化やリサイクルの推進」と答えた人の割合は、尾張地域(23.1%)で高く、名古屋地域(15.1%)で低くなっている。また、「海や河川などの水質保全」と答えた人の割合は、西三河地域(13.7%)で高くなっている。

職業別でみると、自営業で「廃棄物の減量化やリサイクルの推進」(11.5%)と答えた人の割合が低く、「海や河川などの水質保全」(17.0%)と答えた人の割合が高くなっている。



(2) 課題を解決するための取組

「環境に関する情報の提供・意識の啓発」が40%



課題を解決するための取組について、「環境に関する情報の提供・意識の啓発」と答えた人の割合が39.8%で最も高く、次いで「条例や規則などによる規制の強化」(38.4%)、「環境保全に関する技術開発の支援」(31.0%)の順になっている。

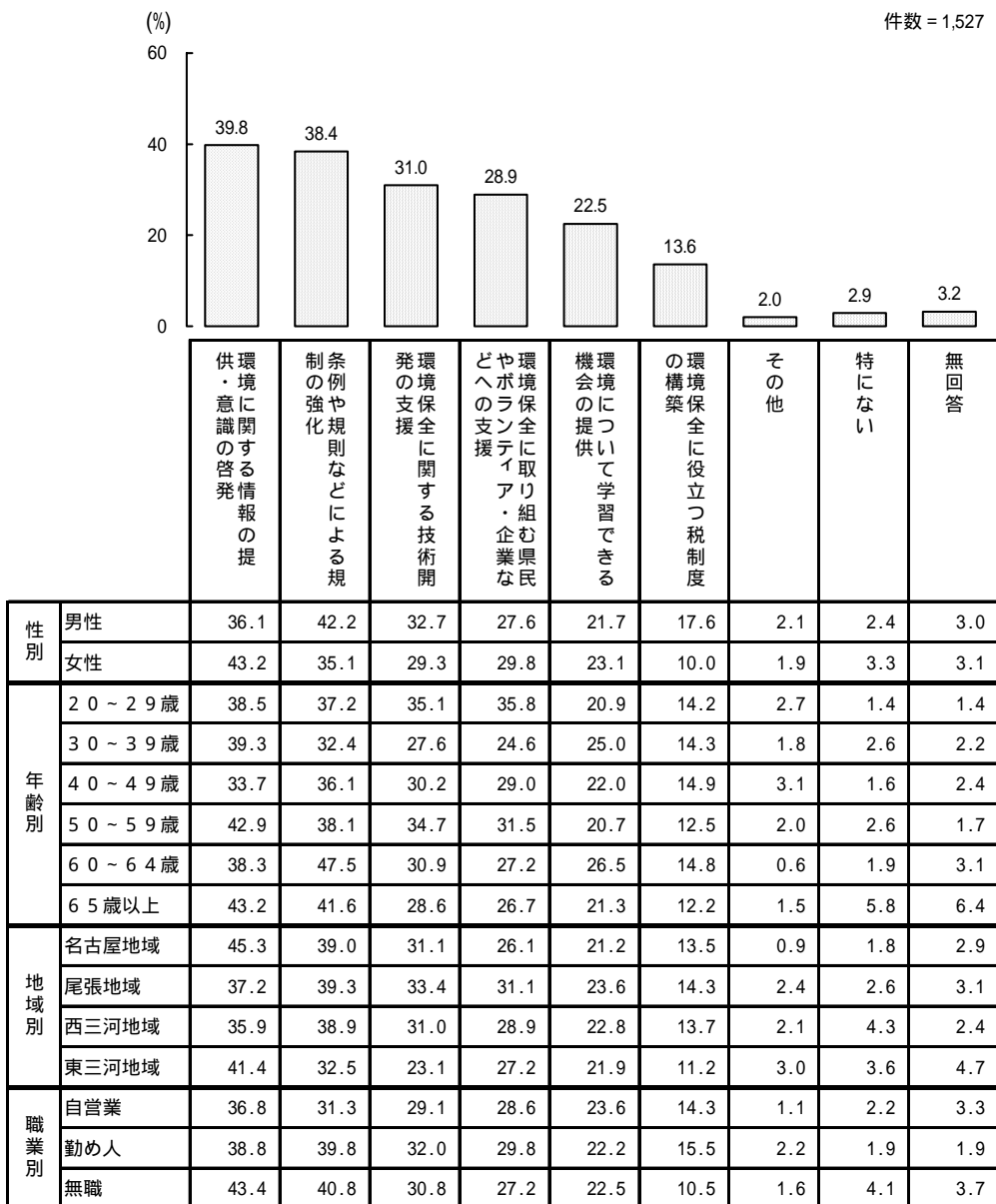
課題を解決するための取組（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、男性は「条例や規則などによる規制の強化」(42.2%)と答えた人の割合が最も高いのに対し、女性は「環境に関する情報の提供・意識の啓発」(43.2%)と答えた人の割合が最も高くなっている。

年齢別で見ると、「条例や規則などによる規制の強化」と答えた人の割合は、60代以上で4割を超えている。

居住地域別で見ると、「環境に関する情報の提供・意識の啓発」と答えた人の割合は、名古屋地域(45.3%)で高くなっている。

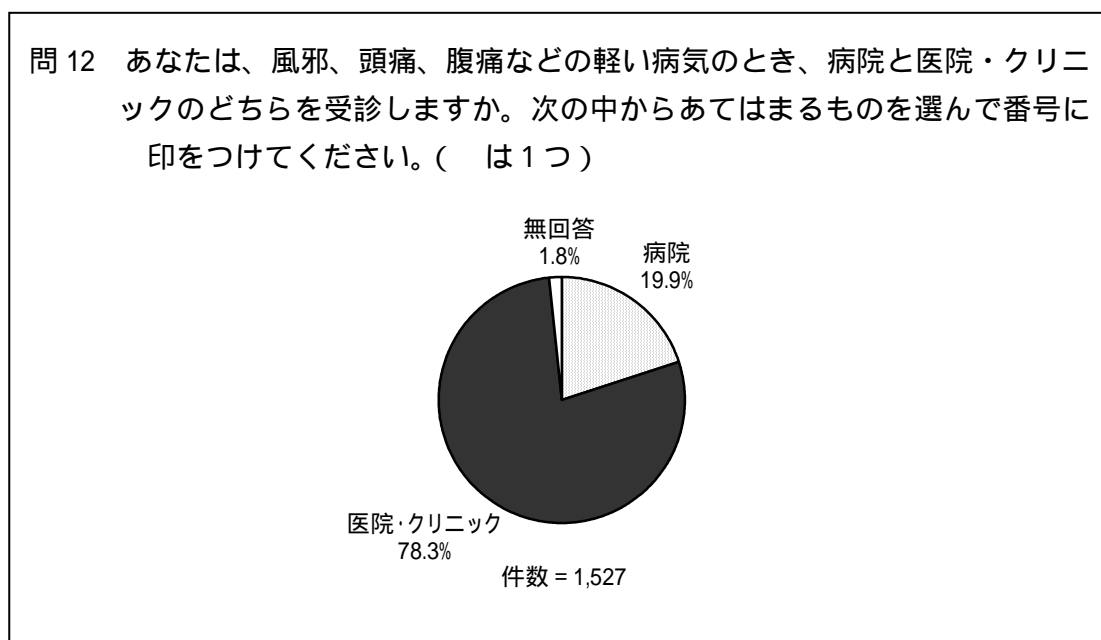
職業別で見ると、無職で「環境に関する情報の提供・意識の啓発」(43.4%)と答えた人の割合が高く、「環境保全に役立つ税制度の構築」(10.5%)と答えた人の割合が低くなっている。



5 医療に関する意識

(1) 軽い病気のときの受診先の選択

「**医院・クリニック**」が78%



軽い病気のと看の受診先の選択について、「医院・クリニック」と答えた人の割合は78.3%、「病院」と答えた人の割合は19.9%となっている。

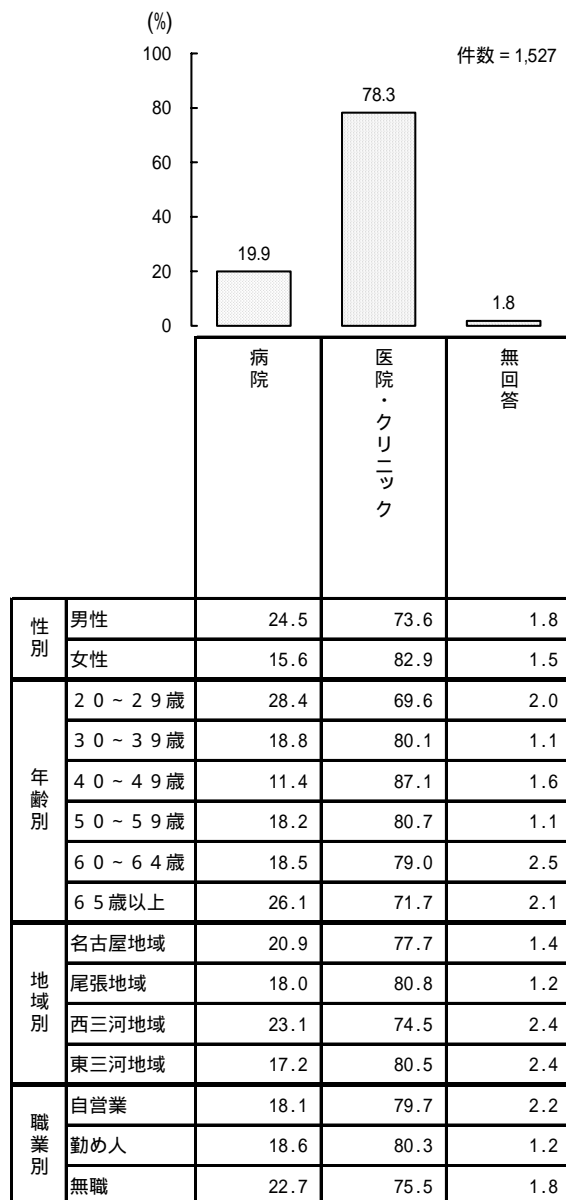
軽い病気のときの受診先の選択（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、「医院・クリニック」と答えた人の割合は、男性（73.6%）より女性（82.9%）で9.3ポイント高く、「病院」と答えた人の割合は、女性（15.6%）より男性（24.5%）で8.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「病院」と答えた人の割合は、20代（28.4%）と65歳以上（26.1%）で高く、「医院・クリニック」と答えた人の割合は、30代から50代で8割を超えている。

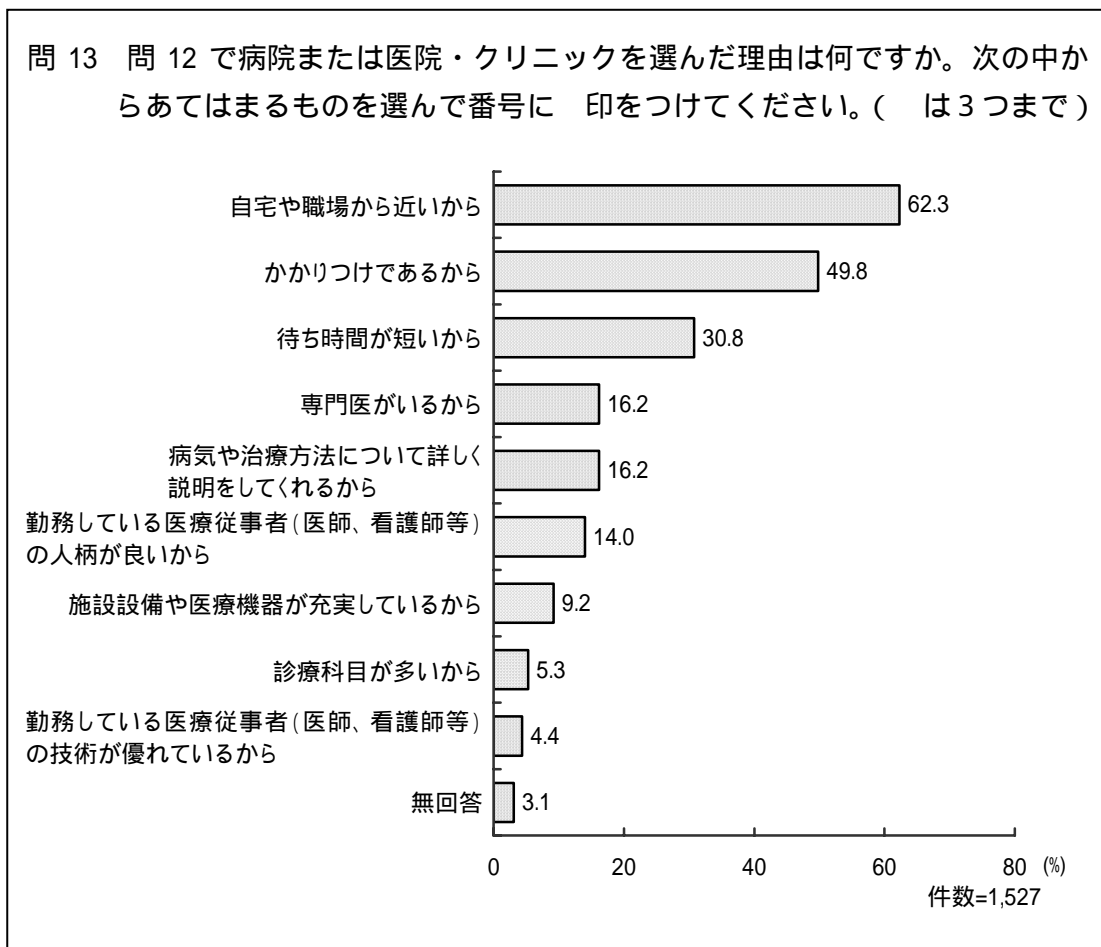
居住地域別で見ると、「病院」と答えた人の割合は、名古屋地域（20.9%）と西三河地域（23.1%）で2割を超えている。一方で、「医院・クリニック」と答えた人の割合は、尾張地域（80.8%）、東三河地域（80.5%）で8割を超えている。

職業別で見ると、「病院」と答えた人の割合は、無職（22.7%）で高くなっている。



(2) 選択の理由

「自宅や職場から近いから」が62%



選択の理由について、「自宅や職場から近いから」と答えた人の割合が 62.3%で最も高く、次いで「かかりつけであるから」(49.8%)、「待ち時間が短いから」(30.8%)の順になっている。

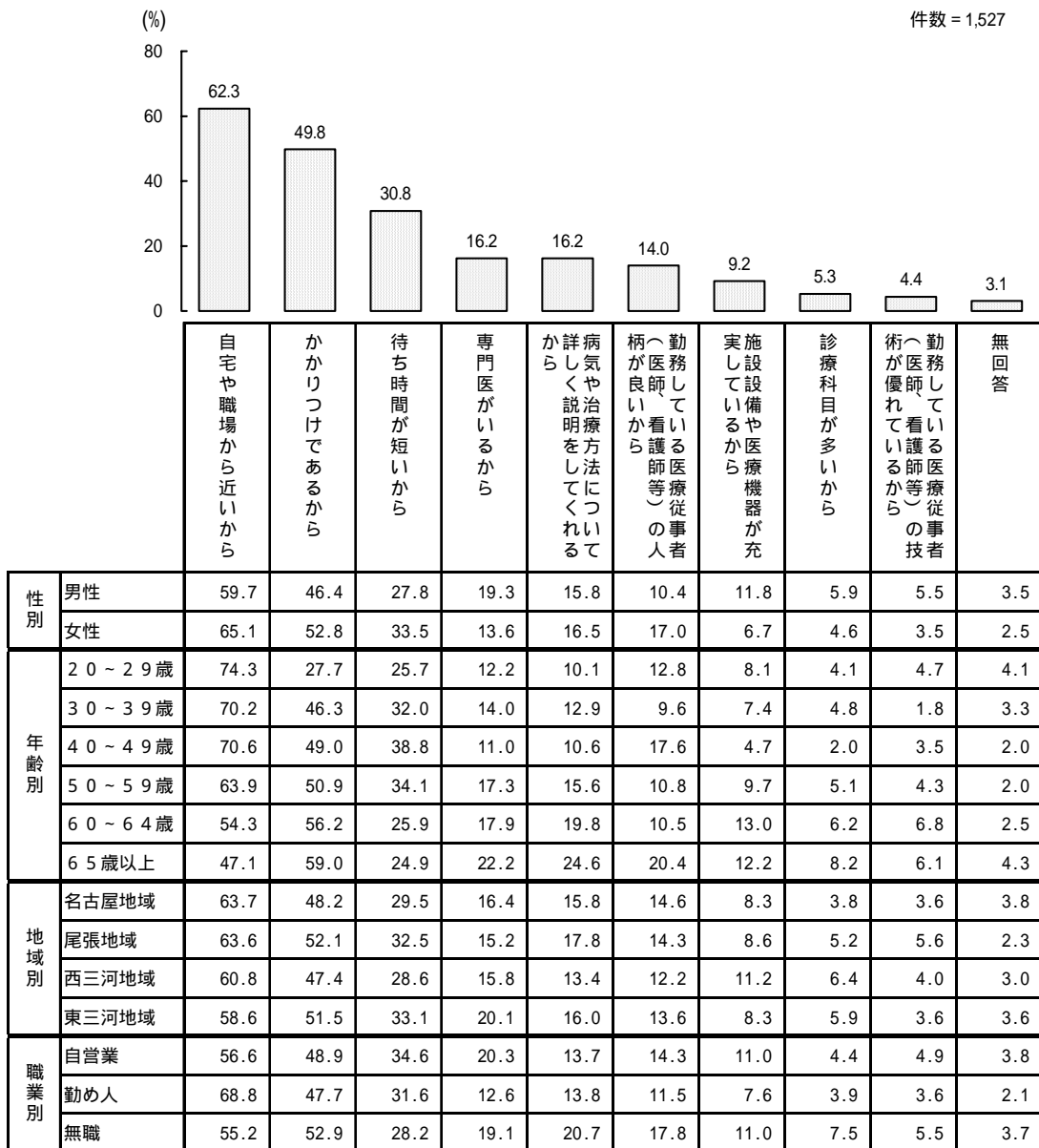
選択の理由（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、「かかりつけであるから」と答えた人の割合は、男性（46.4%）より女性（52.8%）で6.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自宅や職場から近いから」と答えた人の割合は、40代以下で7割を超えている。また、「かかりつけであるから」と答えた人の割合は、年齢が上がるほど高くなっている。

居住地域別で見ると、東三河地域で「自宅や職場から近いから」（58.6%）と答えた人の割合が低く、「専門医がいるから」（20.1%）と答えた人の割合が高くなっている。

職業別で見ると、勤め人で「自宅や職場から近いから」（68.8%）と答えた人の割合が高く、「専門医がいるから」（12.6%）と答えた人の割合が低くなっている。



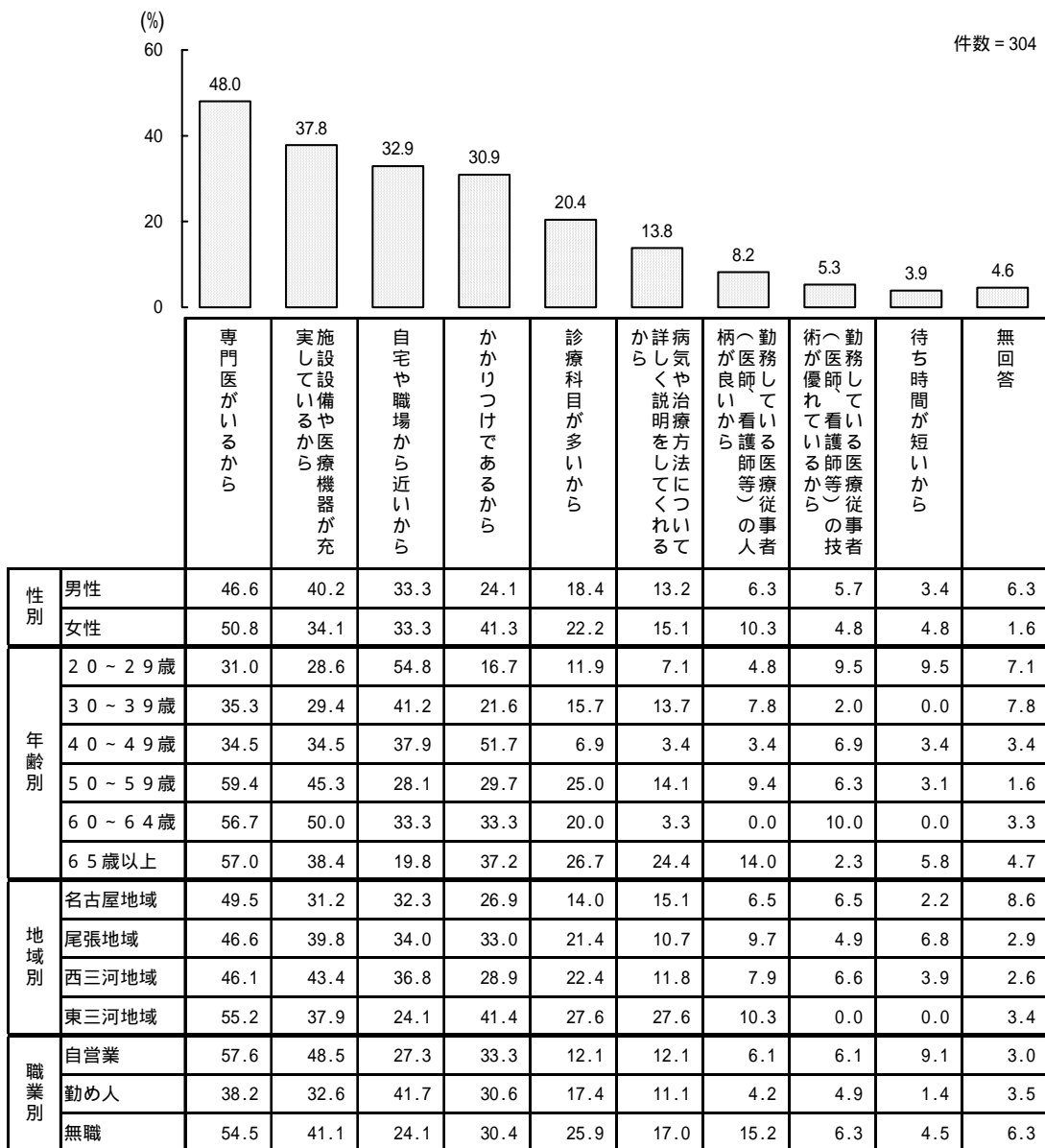
病院を受診（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別でみると、「かかりつけであるから」と答えた人の割合は、女性（41.3%）で4割を超えている。

年齢別でみると、「専門医がいるから」と答えた人の割合は、50代以上で5割を超えている。また、「自宅や職場から近いから」と答えた人の割合は、20代（54.8%）で5割を超えている。

居住地域別でみると、東三河地域で「専門医がいるから」（55.2%）と答えた人の割合が5割台半ばであり、「かかりつけであるから」（41.4%）と答えた人の割合が4割を超えている。

職業別でみると、「自宅や職場から近いから」と答えた人の割合は、勤め人（41.7%）で4割を超えている。



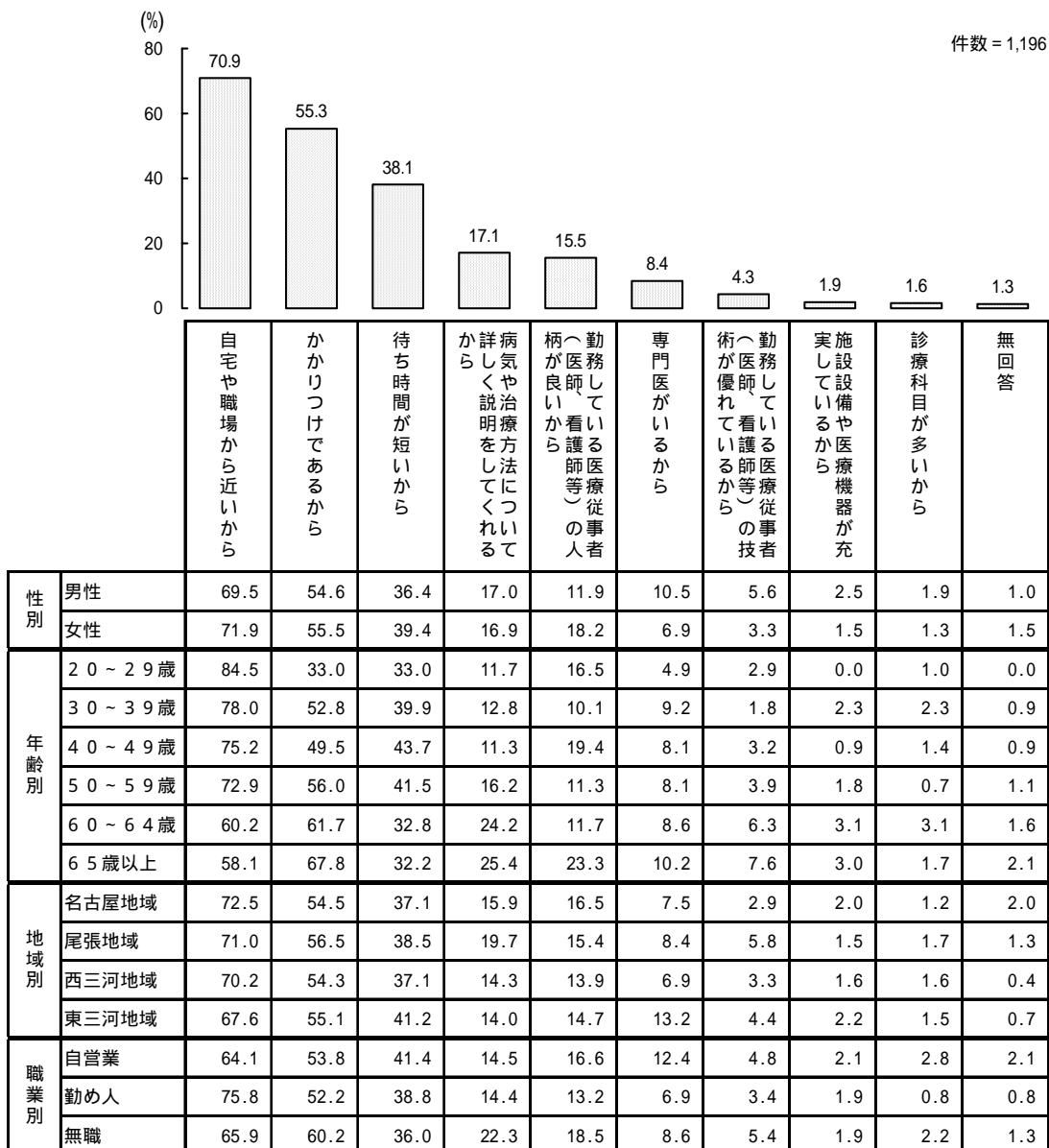
医院・クリニックを受診（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別でみると、上位項目において大きな差異はみられない。

年齢別でみると、「自宅や職場から近いから」と答えた人の割合は、年齢が若いほど高くなっており、20代（84.5%）で8割台半ばとなっている。一方で、「病気や治療方法について詳しく説明をしてくれるから」と答えた人の割合は、60代以上で2割を超えている。

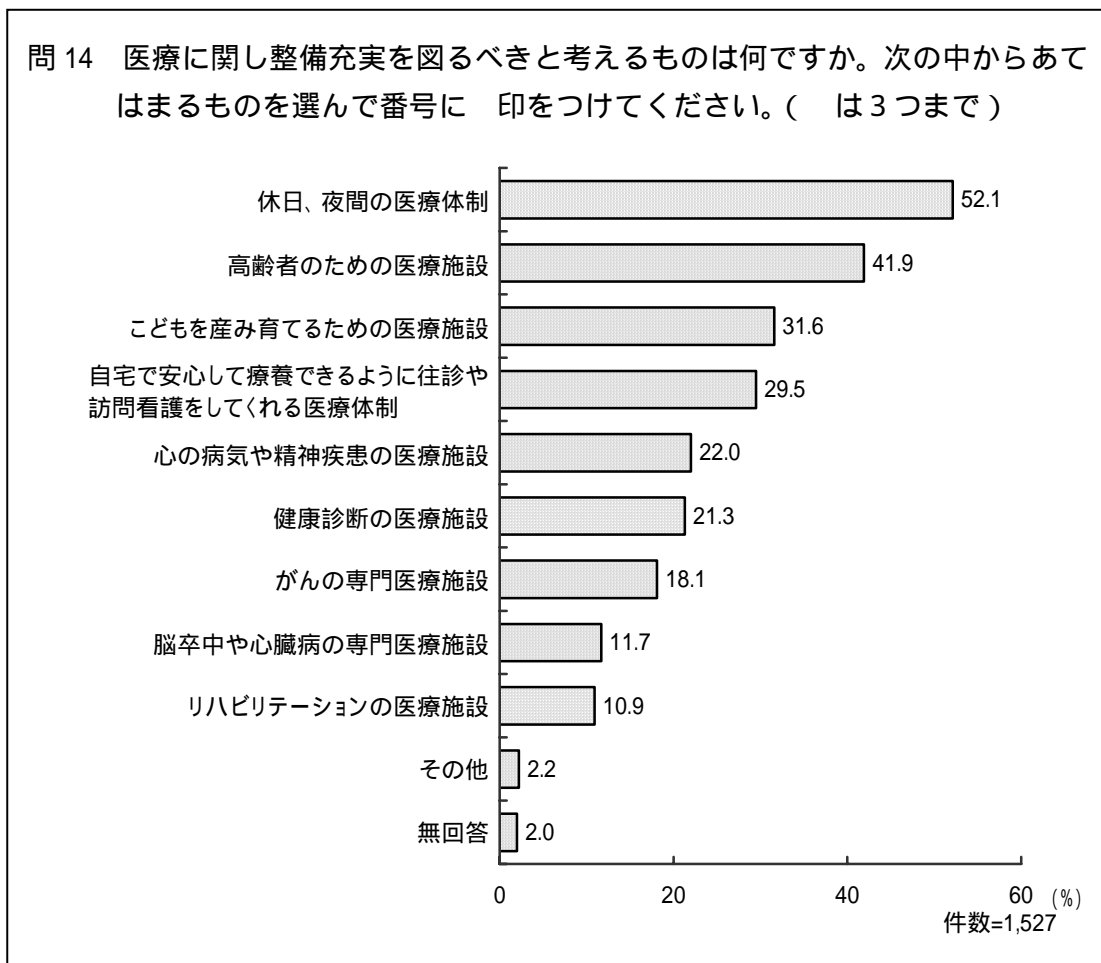
居住地域別でみると、「病気や治療方法について詳しく説明をしてくれるから」と答えた人の割合は、尾張地域（19.7%）で2割に近くなっている。また、「専門医がいるから」と答えた人の割合は、東三河地域（13.2%）で1割を超えている。

職業別でみると、「自宅や職場から近いから」と答えた人の割合は、勤め人（75.8%）で7割台半ばであり、また、「かかりつけであるから」と答えた人の割合は、無職（60.2%）で6割を超えている。



(3) 医療に関して整備充実を図るべきもの

「休日、夜間の医療体制」が52%



医療に関して整備充実を図るべきものについて、「休日、夜間の医療体制」と答えた人の割合が 52.1%で最も高く、次いで「高齢者のための医療施設」(41.9%)、「子どもを産み育てるための医療施設」(31.6%)の順になっている。

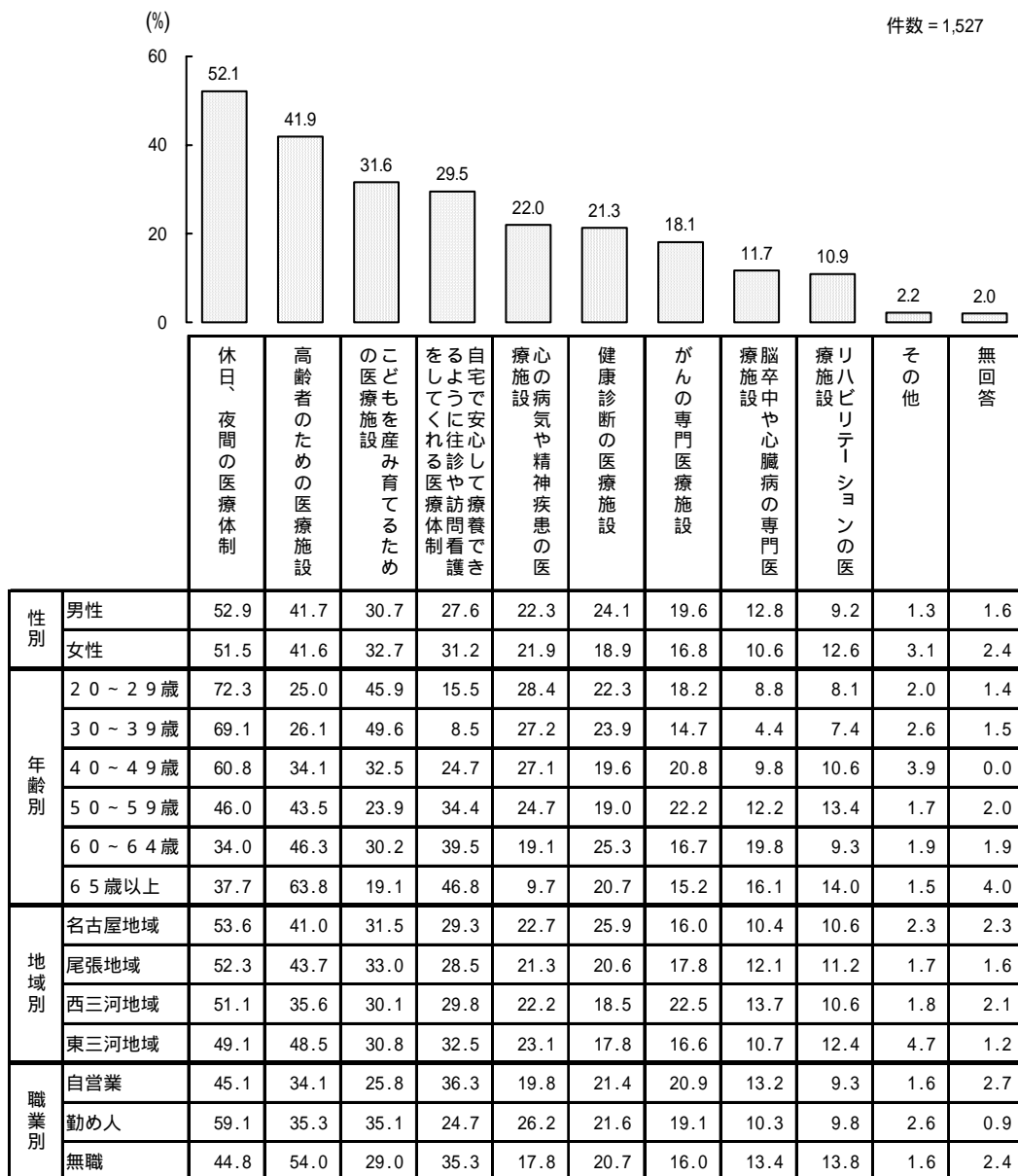
医療に関して整備充実を図るべきもの（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、上位項目において大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、「高齢者のための医療施設」と答えた人の割合は、年齢が上がるほど高くなっており、「心の病気や精神疾患の医療施設」と答えた人の割合は、年齢が若いほど高くなっている。また、「休日、夜間の医療体制」と答えた人の割合は、20代（72.3%）と30代（69.1%）で約7割となっている。

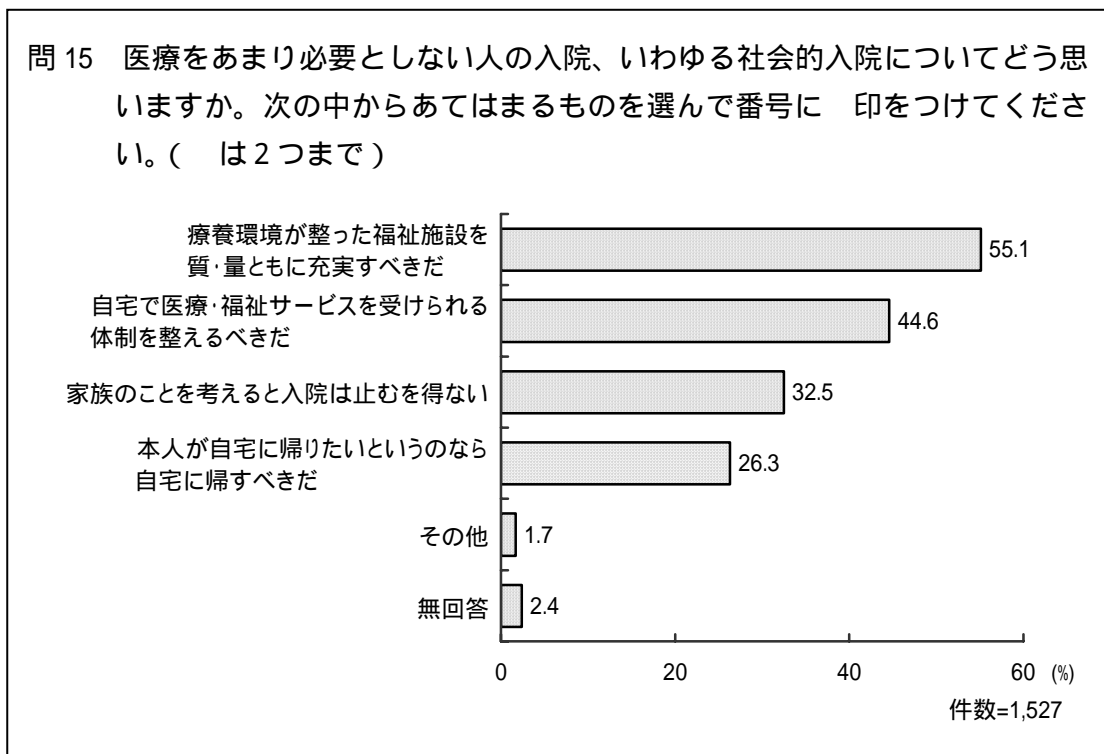
居住地域別で見ると、「高齢者のための医療施設」と答えた人の割合は、東三河地域（48.5%）が高く、西三河地域（35.6%）で低くなっている。

職業別で見ると、勤め人で「休日、夜間の医療体制」（59.1%）、「子どもを産み育てるための医療施設」（35.1%）、「心の病気や精神疾患の医療施設」（26.2%）と答えた人の割合が高くなっている。



(4) 社会的入院

「療養環境が整った福祉施設を質・量ともに充実すべきだ」が55%



社会的入院について、「療養環境が整った福祉施設を質・量ともに充実すべきだ」と答えた人の割合が55.1%で最も高く、次いで「自宅で医療・福祉サービスを受けられる体制を整えるべきだ」(44.6%)、「家族のことを考えると入院は止むを得ない」(32.5%)の順になっている。

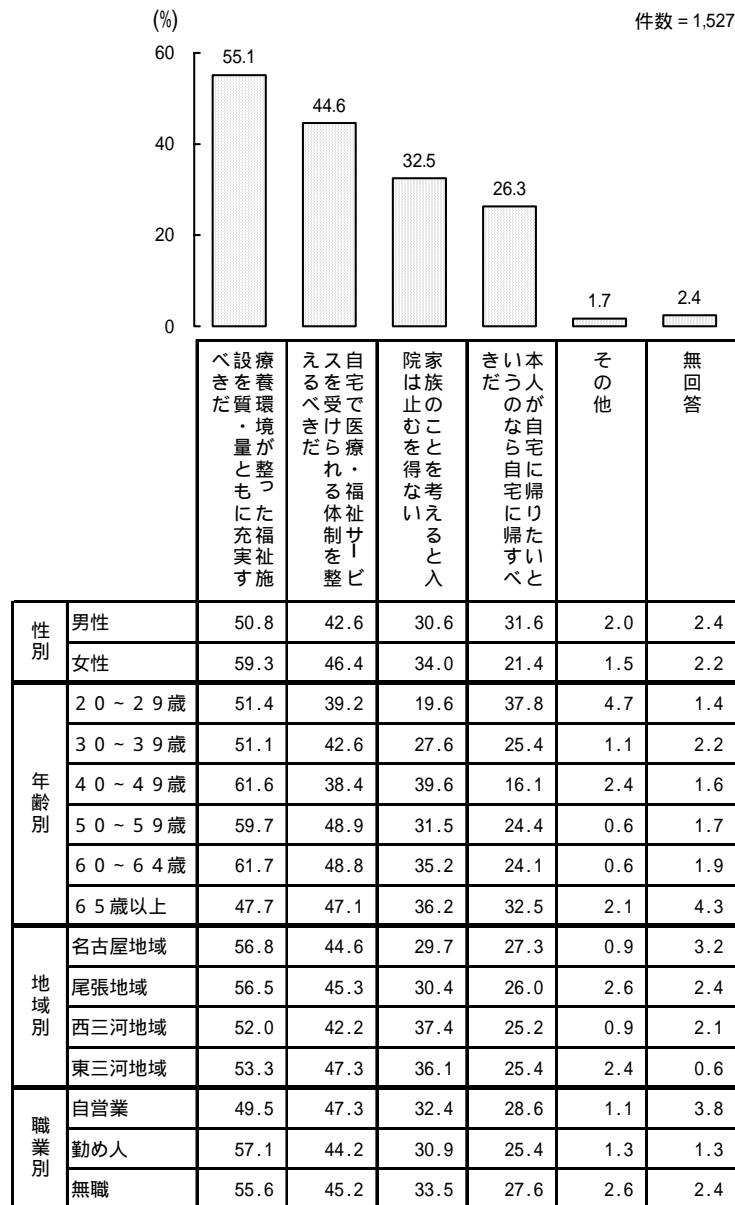
社会的入院（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別でみると、「療養環境が整った福祉施設を質・量ともに充実すべきだ」と答えた人の割合は、男性（50.8%）より女性（59.3%）で8.5ポイント高く、「本人が自宅に帰りたいというのなら自宅に帰すべきだ」と答えた人の割合は、女性（21.4%）より男性（31.6%）で10.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「療養環境が整った福祉施設を質・量ともに充実すべきだ」と答えた人の割合は、40～64歳で約6割となっている。

居住地域別でみると、「家族のことを考えると入院は止むを得ない」と答えた人の割合は、西三河地域（37.4%）、東三河地域（36.1%）で高くなっている。

職業別でみると、「療養環境が整った福祉施設を質・量ともに充実すべきだ」と答えた人の割合は、自営業（49.5%）で低くなっている。



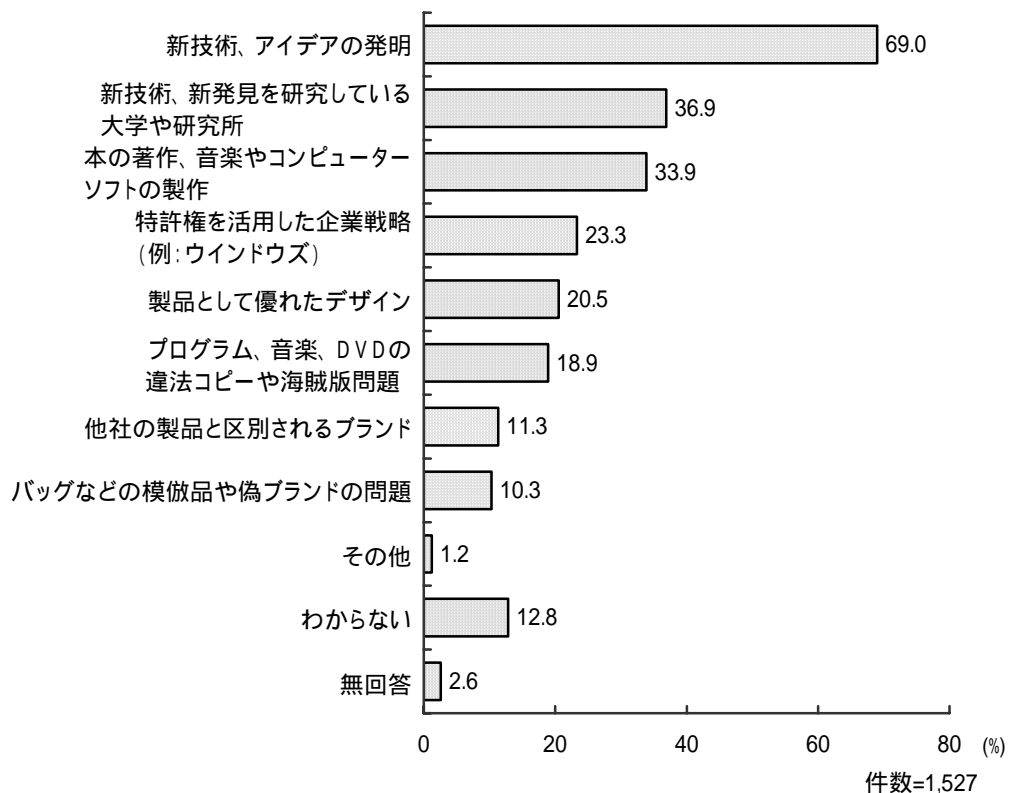
6 知的財産制度

(1) 「知的財産」のイメージ

「**新技術、アイデアの発明**」が69%

問 16 「財産」というと一般的には、土地や自動車など目で見たり手で触ったりできるものを思い浮かべられると思いますが、これに対し、目に見えない、または触ることができないけれども保護する必要のあるものとして無体の財産すなわち「知的財産」というものがあります。この知的財産も社会の発展にとって不可欠な財産であることから、それを保護するという制度があります。

あなたは、無体財産である「知的財産」という言葉からどんなことをイメージしますか。次の中からあてはまるものを選んで 印をつけてください。
(はいくつでも)



「知的財産」のイメージについて、「新技術、アイデアの発明」と答えた人の割合が69.0%で最も高く、次いで「新技術、新発見を研究している大学や研究所」(36.9%)、「本の著作、音楽やコンピューターソフトの製作」(33.9%)の順になっている。

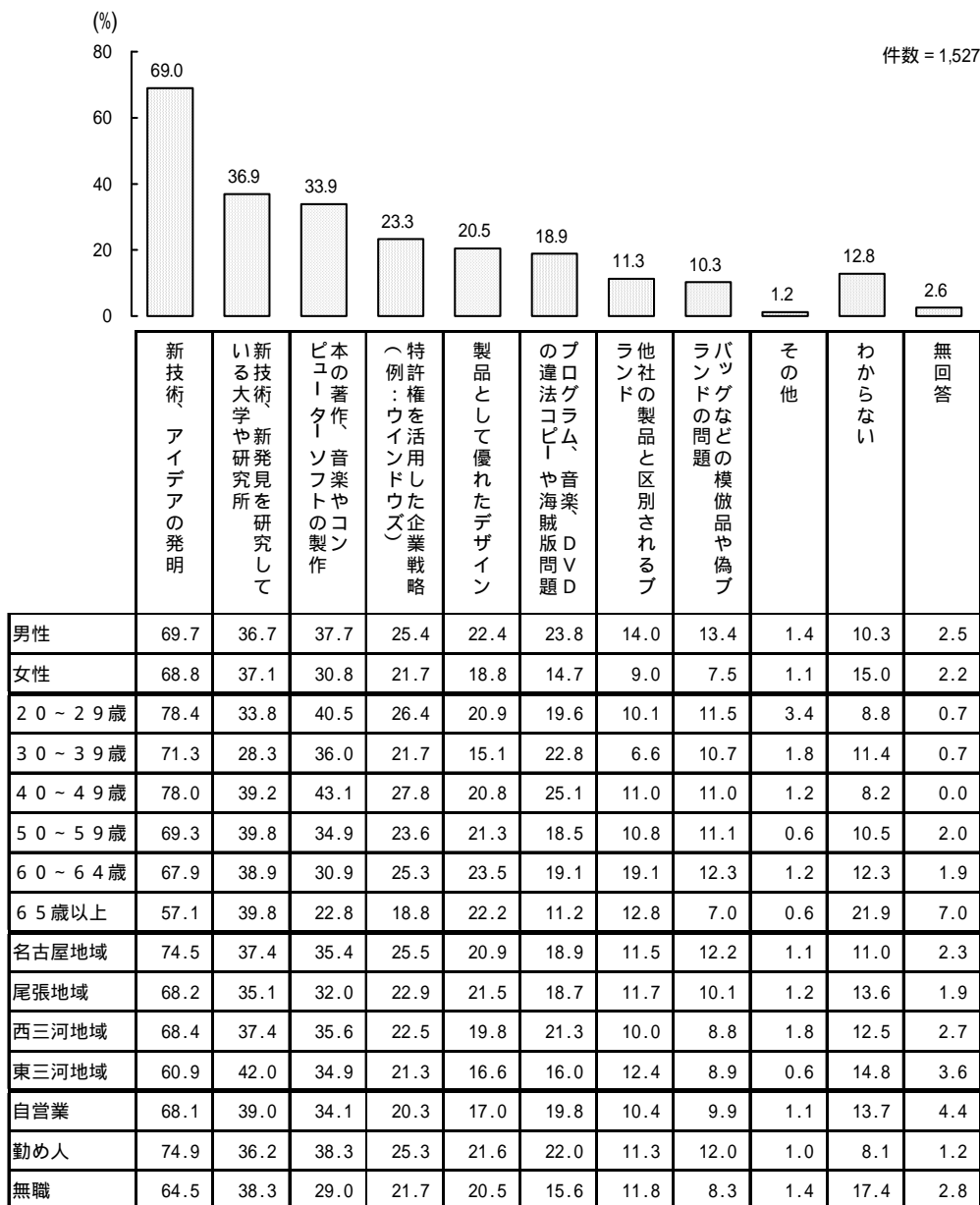
「知的財産」のイメージ（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別で見ると、「プログラム、音楽、DVDの違法コピーや海賊版問題」と答えた人の割合は、女性（14.7%）より男性（23.8%）で9.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「新技術、アイデアの発明」と答えた人の割合は、20代（78.4%）と40代（78.0%）で高くなっている。

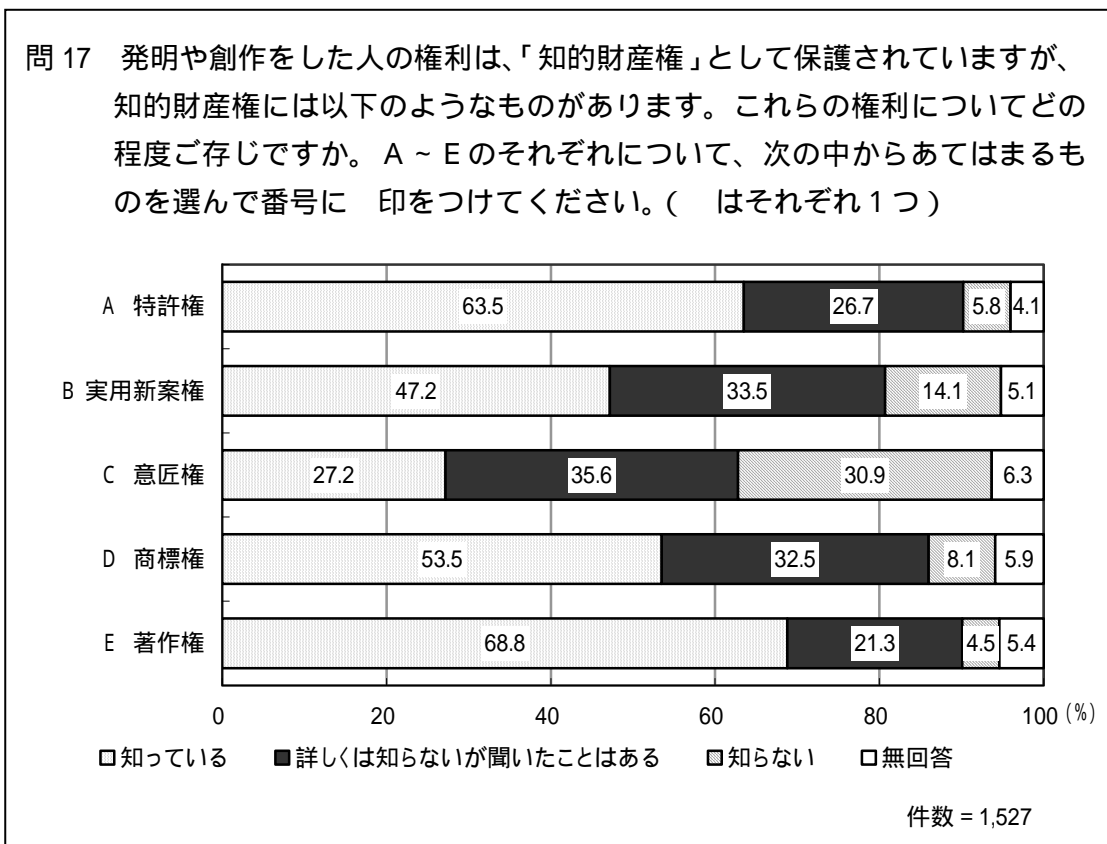
居住地域別で見ると、「新技術、アイデアの発明」と答えた人の割合は、名古屋地域（74.5%）が高く、「新技術、新発見を研究している大学や研究所」と答えた人の割合は、東三河地域（42.0%）で高くなっている。

職業別で見ると、「新技術、アイデアの発明」と答えた人の割合は、勤め人（74.9%）で高くなっている。



(2) 「知的財産権」の認知度

著作権、特許権についての認知度は6割以上



「知的財産権」の認知度について、「知っている」と答えた人の割合は『著作権』が68.8%で最も高く、次いで『特許権』が63.5%となっている。一方で、『意匠権』を「知っている」と答えた人の割合は27.2%と低くなっている。

「知的財産権」の認知度（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

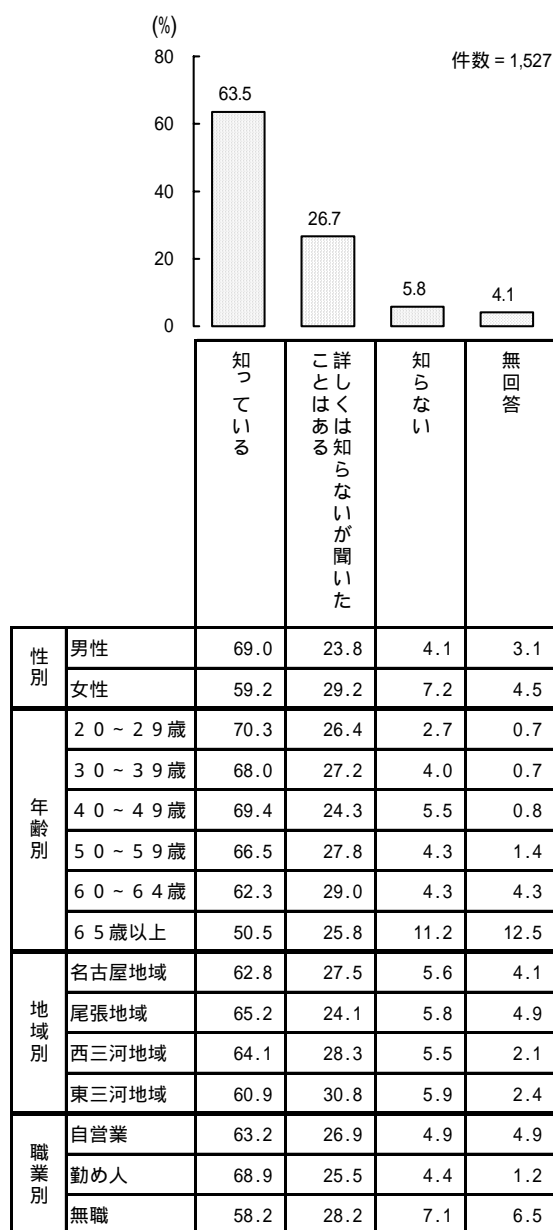
A 特許権

性別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、女性（59.2%）より男性（69.0%）で9.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、65歳以上を除いて6割を超えている。一方で、「知らない」と答えた人の割合は、65歳以上（11.2%）で1割を超えている。

居住地域別で見ると、大きな差異はみられない。

職業別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、勤め人（68.9%）で高く、無職（58.2%）で低くなっている。



B 実用新案権

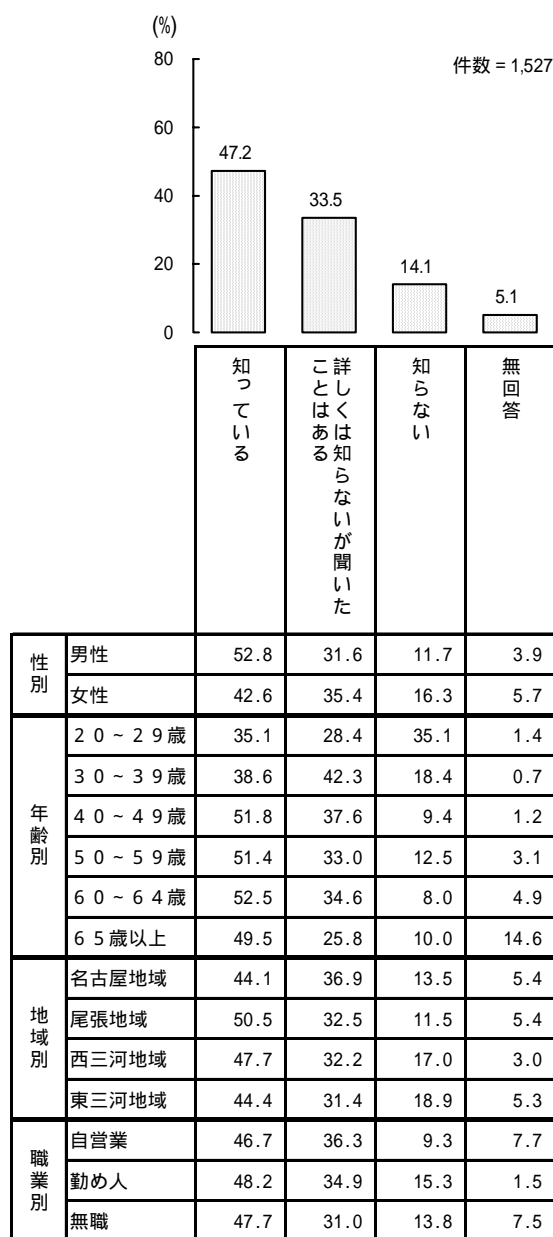
性別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、女性(42.6%)より男性(52.8%)で10.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、40～64歳で5割を超えている。

一方で、「知らない」と答えた人の割合は、20代(35.1%)で高くなっている。

居住地域別で見ると、「知らない」と答えた人の割合は、東三河地域(18.9%)、西三河地域(17.0%)で高くなっている。

職業別で見ると、大きな差異はみられない。



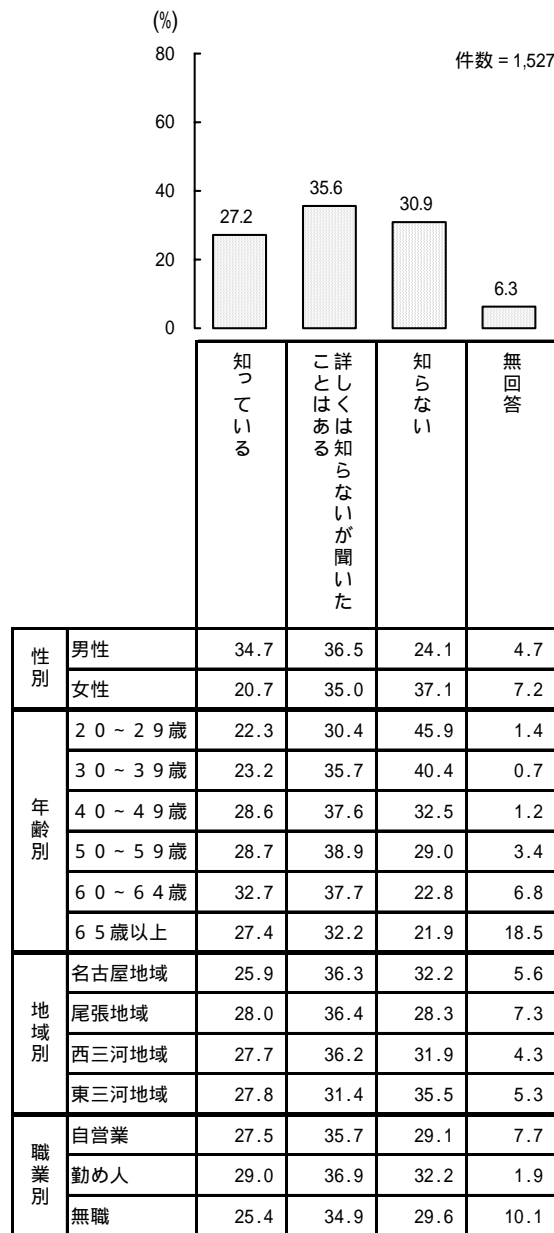
C 意匠権

性別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、女性（20.7%）より男性（34.7%）で 14.0 ポイント高く、「知らない」と答えた人の割合は、男性（24.1%）より女性（37.1%）で 13.0 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、60～64 歳（32.7%）で高くなっている。一方で、「知らない」と答えた人の割合は、年齢が若いほど高くなっており、20代（45.9%）と30代（40.4%）で4割を超えている。

居住地域別で見ると、大きな差異はみられない。

職業別で見ると、大きな差異はみられない。

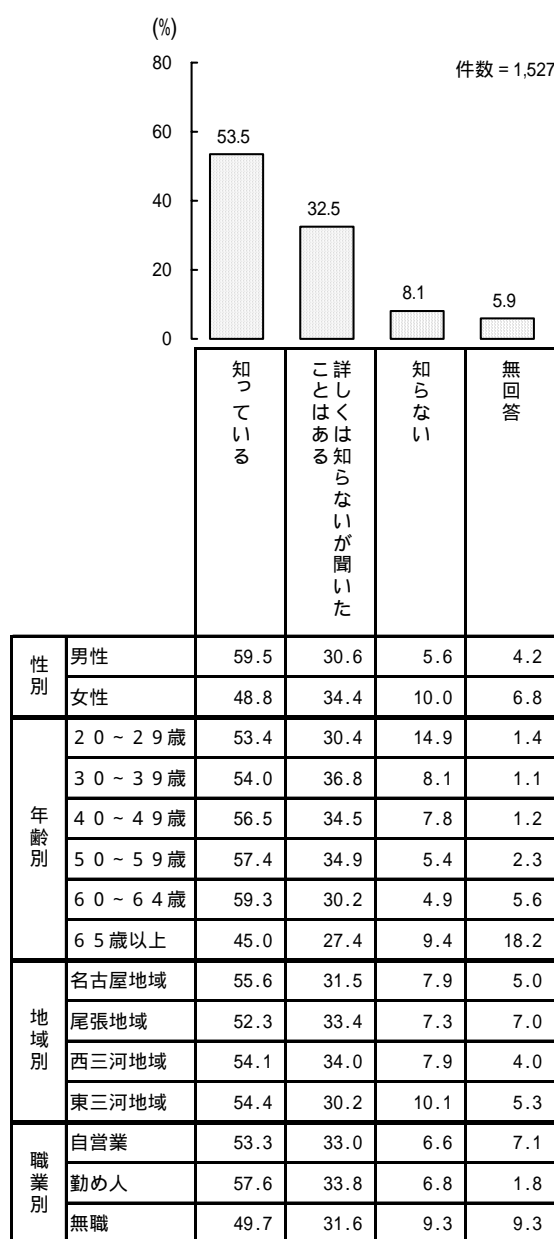


D 商標権

性別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、女性（48.8%）より男性（59.5%）で10.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、65歳以上を除いて5割を超えている。また、「知らない」と答えた人の割合は、20代（14.9%）で高くなっている。居住地別で見ると、「知らない」と答えた人の割合は、東三河地域（10.1%）で高くなっている。

職業別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、勤め人（57.6%）で高くなっている。



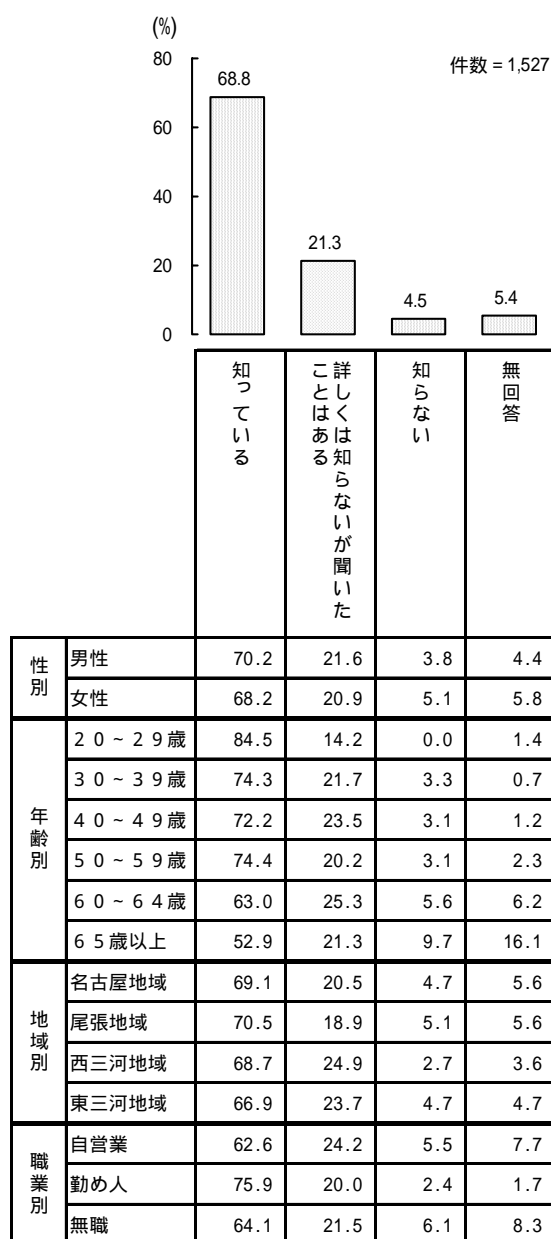
E 著作権

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、20代（84.5%）で高く、65歳以上（52.9%）で低くなっている。

居住地域別で見ると、大きな差異はみられない。

職業別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、勤め人（75.9%）で高くなっている。

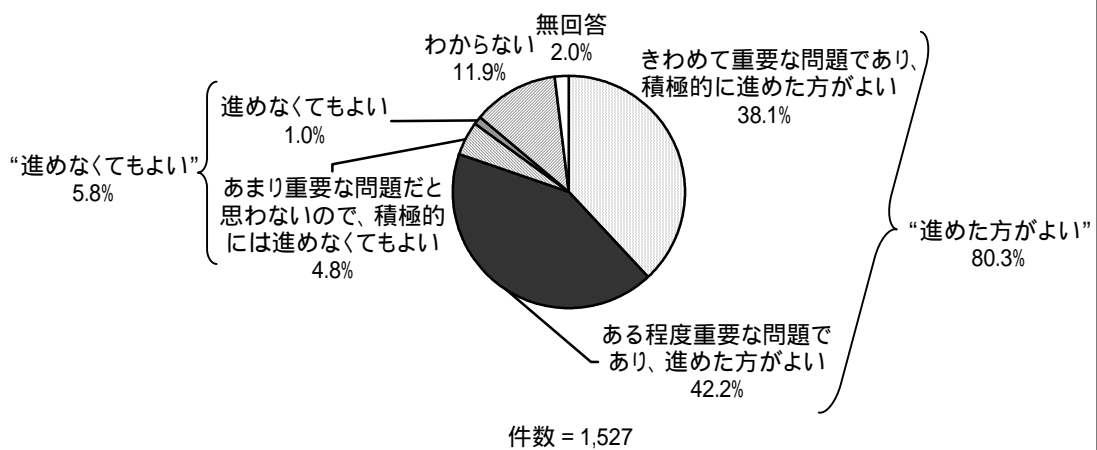


(3) 知的財産権への取組

“進めた方がよい”が80%

問 18 経済の国際化が進み、国の内外を問わず企業の競争力が問われる中で、将来に向けて日本の産業が発展していくためには、先端的な技術や製品を「知的財産」として保護し、産業に活用していくことが求められていると考え、県では「知的財産」の創造・保護・活用を図る知的財産立県づくりに取り組んでいます。

そこで、県がこうした知的財産権についての取組を進めることについて、あなたはどのように思われますか。次の中からあてはまるものを選んで印をつけてください。(は1つ)



知的財産権への取組について、“進めた方がよい”(「きわめて重要な問題であり、積極的に進めた方がよい」38.1% + 「ある程度重要な問題であり、進めた方がよい」42.2%)と答えた人の割合は80.3%となっている。一方で、“進めなくてもよい”(「あまり重要な問題だと思わないので、積極的には進めなくてもよい」4.8% + 「進めなくてもよい」1.0%)と答えた人の割合は5.8%となっている。

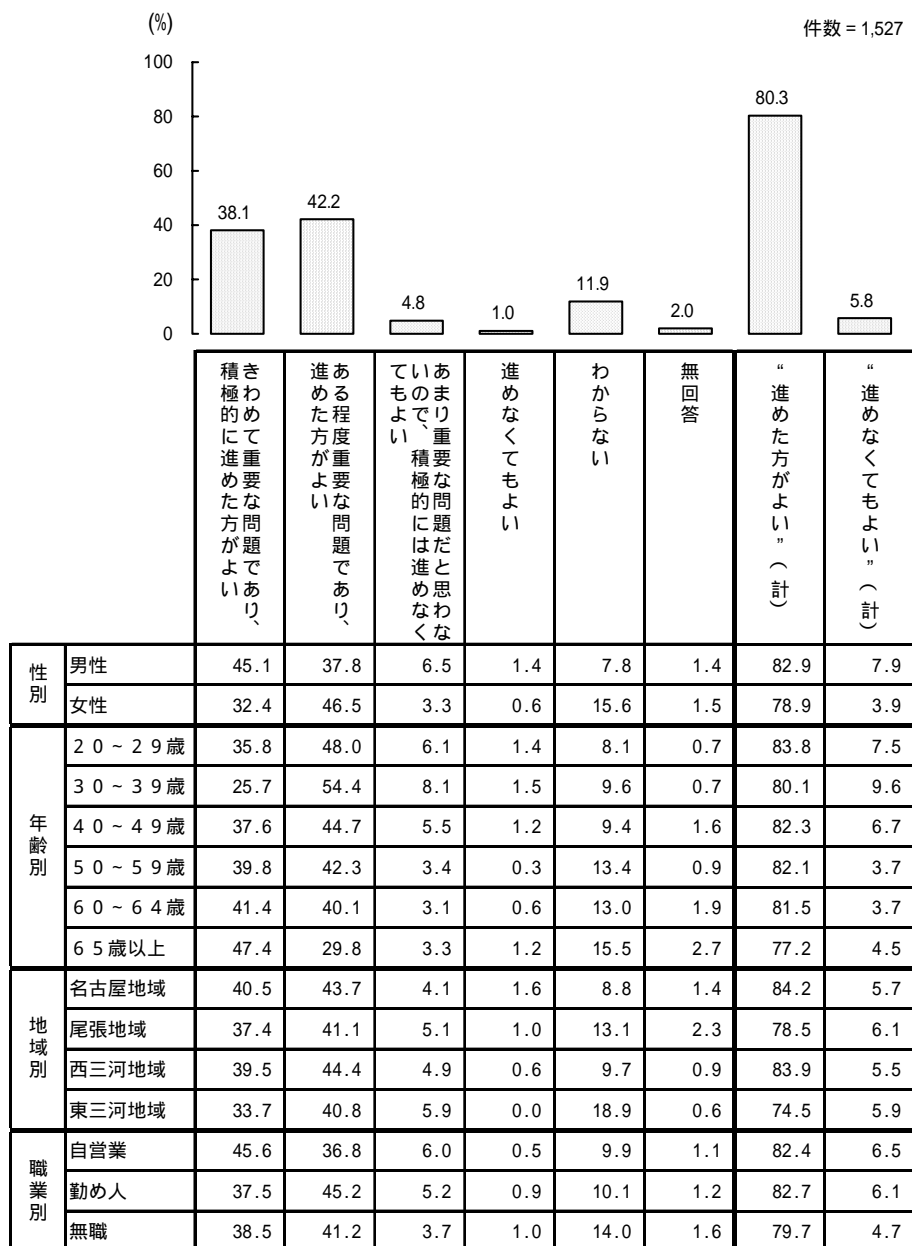
知的財産権への取組（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別でみると、“進めた方がよい”と答えた人の割合は、女性(78.9%)より男性(82.9%)で4.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“進めた方がよい”と答えた人の割合は、65歳以上(77.2%)で8割を下回っている。

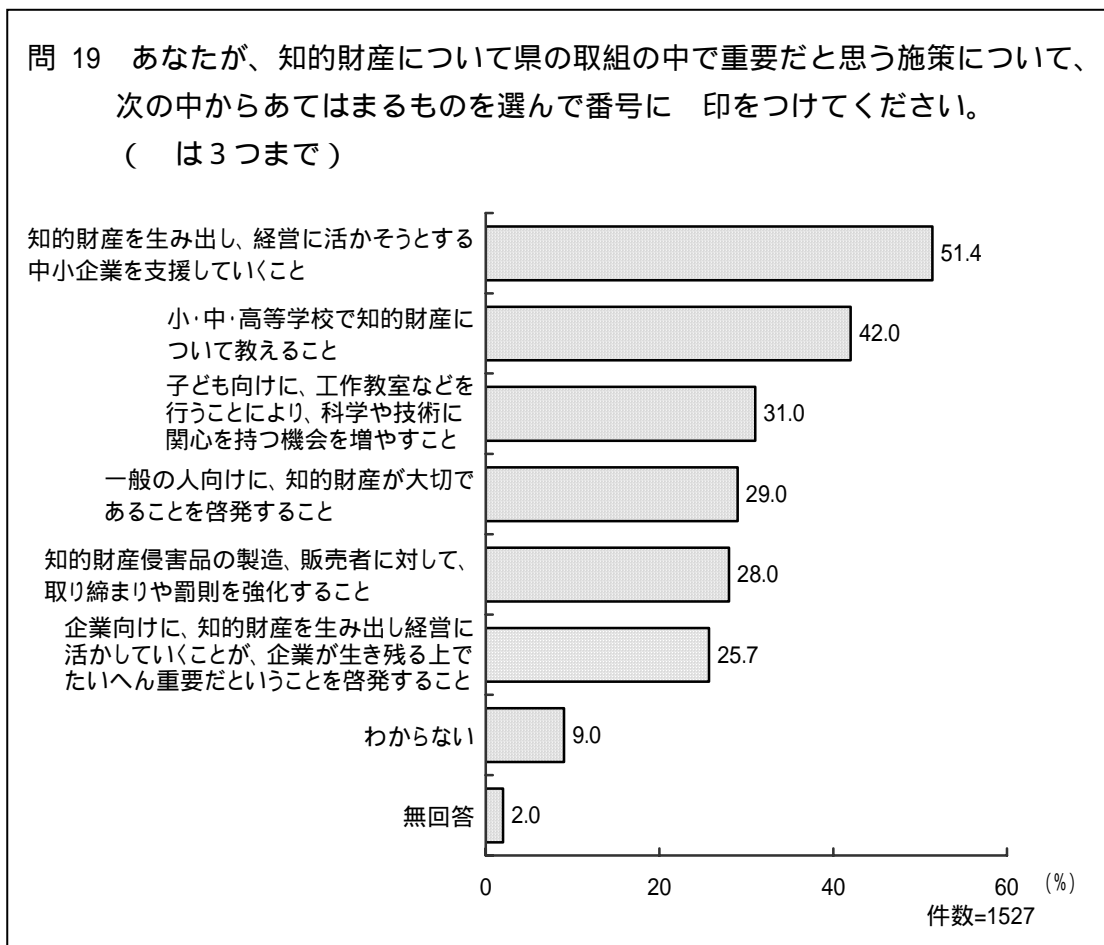
居住地域別でみると、“進めた方がよい”と答えた人の割合は、名古屋地域(84.2%)、西三河地域(83.9%)で高くなっている。

職業別でみると、大きな差異はみられない。



(4) 知的財産への取組で重要な施策

「知的財産を生み出し、経営に活かそうとする中小企業を支援していくこと」が51%



知的財産への取組で重要な施策について、「知的財産を生み出し、経営に活かそうとする中小企業を支援していくこと」と答えた人の割合が51.4%で最も高く、次いで「小・中・高等学校で知的財産について教えること」(42.0%)、「子ども向けに、工作教室などを行うことにより、科学や技術に関心を持つ機会を増やすこと」(31.0%)の順になっている。

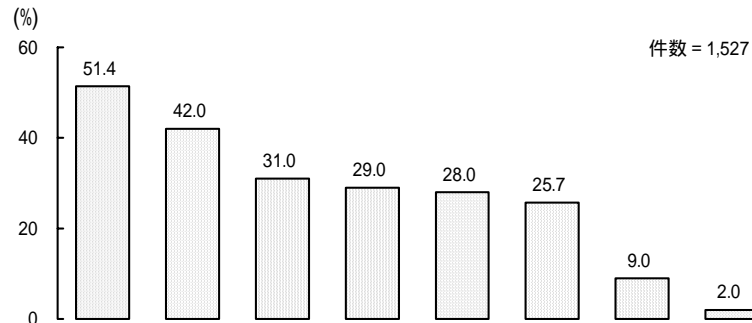
知的財産への取組で重要な施策（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

性別でみると、「知的財産侵害品の製造、販売者に対して、取り締まりや罰則を強化すること」と答えた人の割合は、女性（23.3%）より男性（33.9%）で10.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「小・中・高等学校で知的財産について教えること」と答えた人の割合は、40代（50.6%）で高く、「子ども向けに、工作教室などを行うことにより、科学や技術に関心を持つ機会を増やすこと」と答えた人の割合は、30代（38.6%）で高くなっている。

居住地域別でみると、「知的財産を生み出し、経営に活かそうとする中小企業を支援していくこと」と答えた人の割合は、東三河地域（58.6%）で高くなっている。

職業別でみると、大きな差異はみられない。



		知的財産を生み出し、経営に活かそうとする中小企業を支援していくこと	小・中・高等学校で知的財産について教えること	子ども向けに、科学や技術教室などを行うことにより、科学や技術に関心を持つ機会を増やすこと	一般の人向けに、知的財産が大切であることを啓発すること	知的財産侵害品の製造、販売者に対して、取り締まりや罰則を強化すること	営利活動に際して、知的財産を生み出し、経営に活かそうとする中小企業を支援していくこと	わからない	無回答
性別	男性	51.9	41.6	31.7	30.5	33.9	28.8	6.9	1.4
	女性	51.6	42.7	30.7	28.1	23.3	23.3	10.9	1.4
年齢別	20～29歳	51.4	39.9	29.1	34.5	33.1	25.7	6.1	0.7
	30～39歳	51.8	43.4	38.6	22.1	30.1	20.6	7.0	0.7
	40～49歳	56.9	50.6	26.7	23.5	29.4	19.6	6.7	0.8
	50～59歳	53.4	36.6	31.0	33.0	24.7	25.3	10.8	1.7
	60～64歳	47.5	46.9	30.9	28.4	29.0	29.6	8.6	1.9
	65歳以上	48.0	39.5	30.1	33.4	26.7	33.7	12.2	2.1
地域別	名古屋地域	53.8	43.2	31.1	29.3	29.5	26.4	7.9	1.1
	尾張地域	49.0	40.2	28.8	28.7	28.1	26.7	9.4	1.6
	西三河地域	50.8	45.6	34.0	31.9	25.2	24.6	8.2	1.8
	東三河地域	58.6	40.2	34.3	25.4	30.8	23.1	11.2	1.2
職業別	自営業	51.6	45.6	36.3	31.3	26.9	29.1	4.9	1.1
	勤め人	54.1	42.0	32.1	27.2	29.8	24.4	7.1	1.3
	無職	50.7	42.4	29.0	32.9	26.0	27.4	11.8	1.4